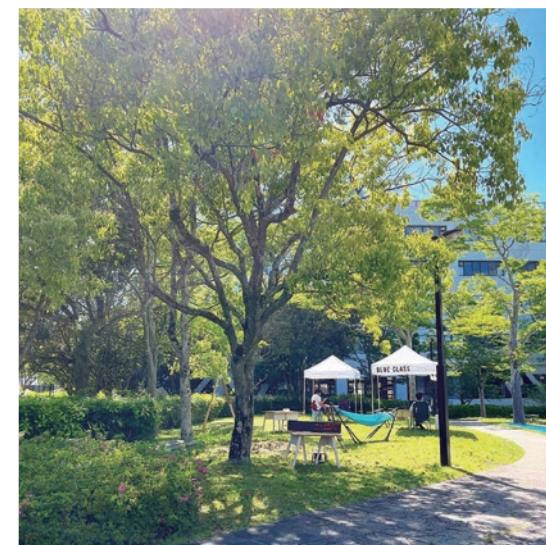
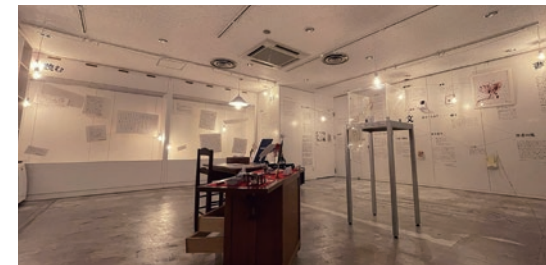
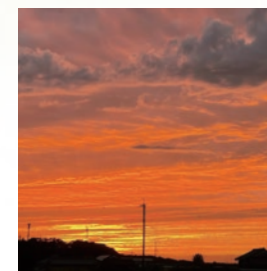


令和5年度

# 第16回 学生生活実態 調査報告書





# まえがき



第 16 回「学生生活実態調査」の報告書をお届けします。これは令和 5 年度（2023 年度）に実施した調査について、その概要をまとめたものです。

この調査は原則として、2 年に 1 度実施しています。本学の学部と大学院（修士課程・専門職学位課程・博士課程）の学生の生活状況や生活意識の実態を把握し、学生生活の充実に役立てることが本調査の目的です。

調査項目は、通学、食事、学生寄宿舍、施設・設備、課外活動、アルバイト、ハラスメントなど学生生活全般に渡っています。また、自由記述欄を設け、大学への要望や期待について学生の生の声をあつめています。

今回の調査結果は、3 年以上にわたるコロナ禍を経て、徐々に本来の大学生生活に戻りつつある学生の皆さんの声が如実に現れています。この報告書は、読みやすくわかりやすい体裁になっていますので、ポスト・コロナの学生状況を把握するためにもぜひご一読ください。

これらの調査結果をもとに、学生の皆さんがより充実した学生生活を送れるように、学生支援のあり方を検討し、大学として計画的に支援の充実に取り組んでいきます。

調査に回答してくださった学生の皆さん、また調査の実施に際してご協力いただきましたクラス担当教員やグループ担当教員、研究指導教員の先生方、ありがとうございました。さらに、調査結果の分析と本報告書の執筆にご尽力いただいた学生委員会委員の先生方および学生支援課の皆様には厚くお礼申し上げます。

令和 6 年 7 月  
兵庫教育大学 学生委員会委員長

河内 勇



# contents

|   |               |    |
|---|---------------|----|
| A | 基 本 事 項       | 1  |
| B | 就 職           | 2  |
| C | 学 生 寄 宿 舎     | 6  |
| D | 通 学           | 8  |
| E | 食 事           | 9  |
| F | 売 店 等         | 10 |
| G | ア ル バ イ ト     | 11 |
| H | 附 属 図 書 館     | 12 |
| I | 学 生 生 活 等     | 14 |
| J | 課 外 活 動       | 16 |
| K | 国 際 交 流       | 18 |
| L | 交 通 安 全 等     | 20 |
| M | 健 康           | 21 |
| N | ハ ラ ス メ ン ト   | 22 |
| O | 大 学 へ の 要 望 等 | 23 |
|   | 参 考 資 料       | 27 |



兵庫教育大学では原則として2年ごとに、学部と大学院（修士課程・専門職学位課程・博士課程）に在籍する全学生を対象に、学生生活実態調査を実施している。今回は、その16回目にあたり、令和6年（2024年）1月にアンケート調査を行った。その結果、学部生370名、大学院生323名、合計693名から回答が寄せられた。

表1 学校教育学部

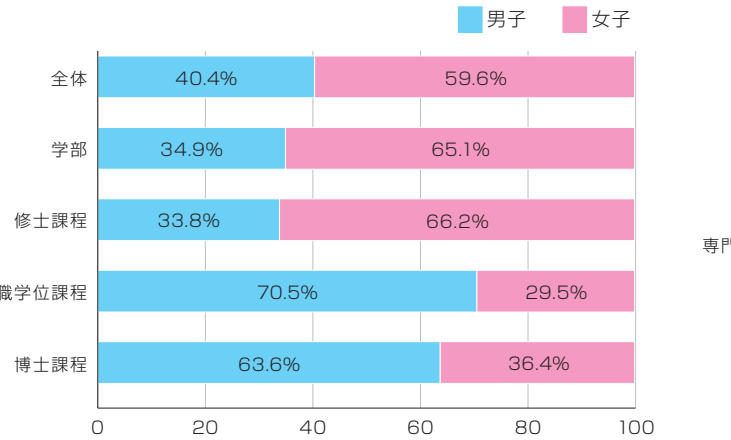
| 学年  | 対象者数 | 回収数 | 回収率   |
|-----|------|-----|-------|
| 1年次 | 168  | 113 | 67.3% |
| 2年次 | 160  | 74  | 46.3% |
| 3年次 | 162  | 81  | 50.0% |
| 4年次 | 171  | 102 | 59.6% |
| 合計  | 661  | 370 | 56.0% |

表3 大学院学校教育研究科（専門職学位課程）

| 学年  | 対象者数 | 回収数 | 回収率   |
|-----|------|-----|-------|
| 1年次 | 113  | 54  | 47.8% |
| 2年次 | 111  | 45  | 40.5% |
| 3年次 | 12   | 6   | 50.0% |
| 合計  | 236  | 105 | 44.5% |

回答者の性別は、学部生では約65%が女子学生、大学院も女子学生がやや多い。

グラフ Q: 回答者の性別構成



調査の回収率は学部生が56%（前回63%）、昼間大学院生が55%（前回64%）、夜間大学院生が49%（前回28%）であり、学部生と昼間大学院生の回収率は下がったが夜間大学院生は上がった。全体では54%であり前回の56%と比べるとやや低かった。

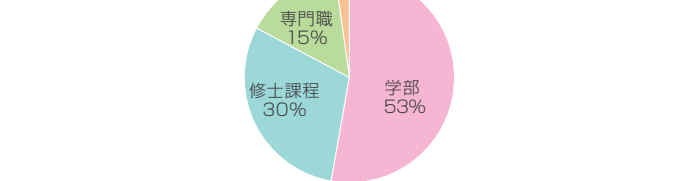
表5 修士課程および専門職学位課程（昼・夜別）

| 対象者数 |     |     | 回収数 |    |     | 回収率   |       |       |
|------|-----|-----|-----|----|-----|-------|-------|-------|
| 昼間   | 夜間  | 計   | 昼間  | 夜間 | 計   | 昼間    | 夜間    | 全体    |
| 410  | 174 | 584 | 227 | 85 | 312 | 55.4% | 48.9% | 53.4% |

表6 総計

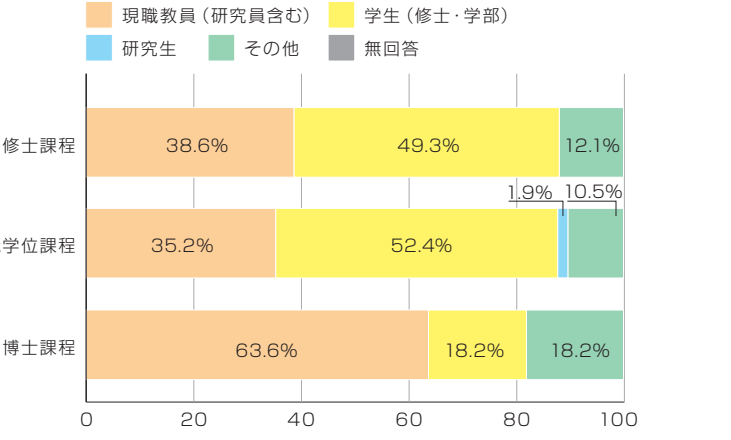
| 学年 | 対象者数 | 回収数 | 回収率   |
|----|------|-----|-------|
| 全体 | 1277 | 693 | 54.3% |

グラフ 回答者の構成



大学院生のうち現職教員の割合は、修士課程では39%（前回42%）、専門職学位課程では35%（前回54%）で、前回より減少している。

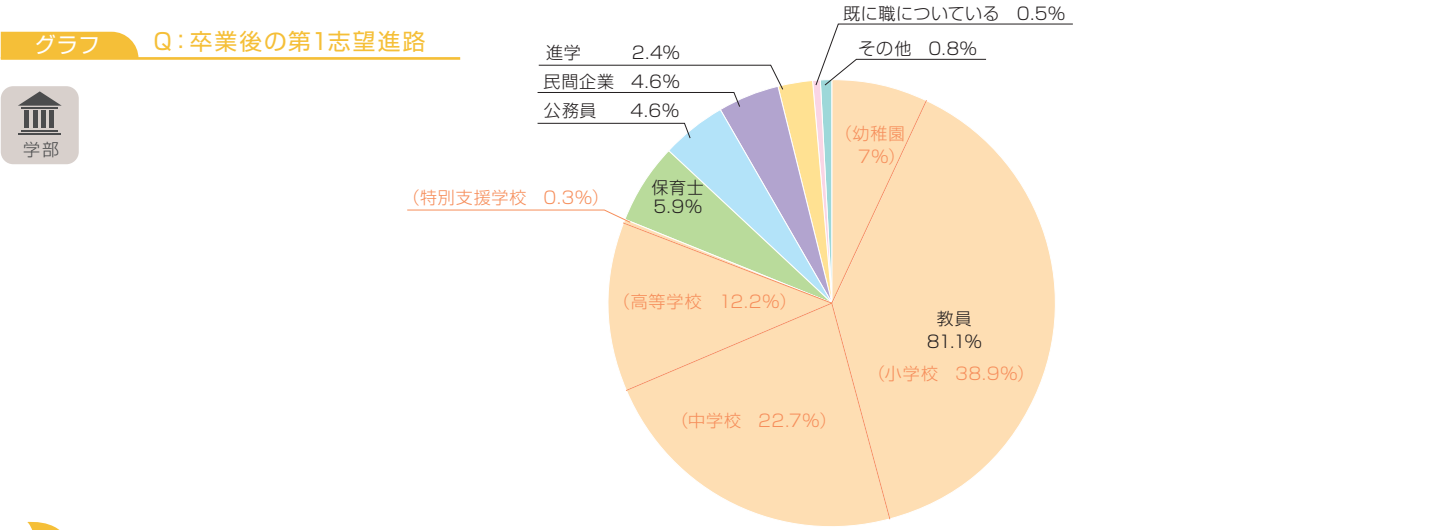
グラフ Q: 大学院生の入学前の状況



学部生の教員・保育士志望は87%（前回88%）であり、そのうち教員志望は81%（前回82%）であり、いずれも前回からやや減少している。前回に比べると、中学校教員は23%（前回21%）、高等学校教員は12.2%（前回11.7%）、保育士5.9%（前回5.2%）と増加しているものの、小学校教員は39%（前回40%）、幼稚園

教員は7%（前回9%）、特別支援学校教員は0.3%（前回0.7%）と減少している。小学校教員と中学校教員についてのみ前々回からの比較で見ても、小学校教員は前々回49%から今回10%減少と減少傾向にある一方で、中学校教員は前々回15%から今回8%増加と増加傾向にある。

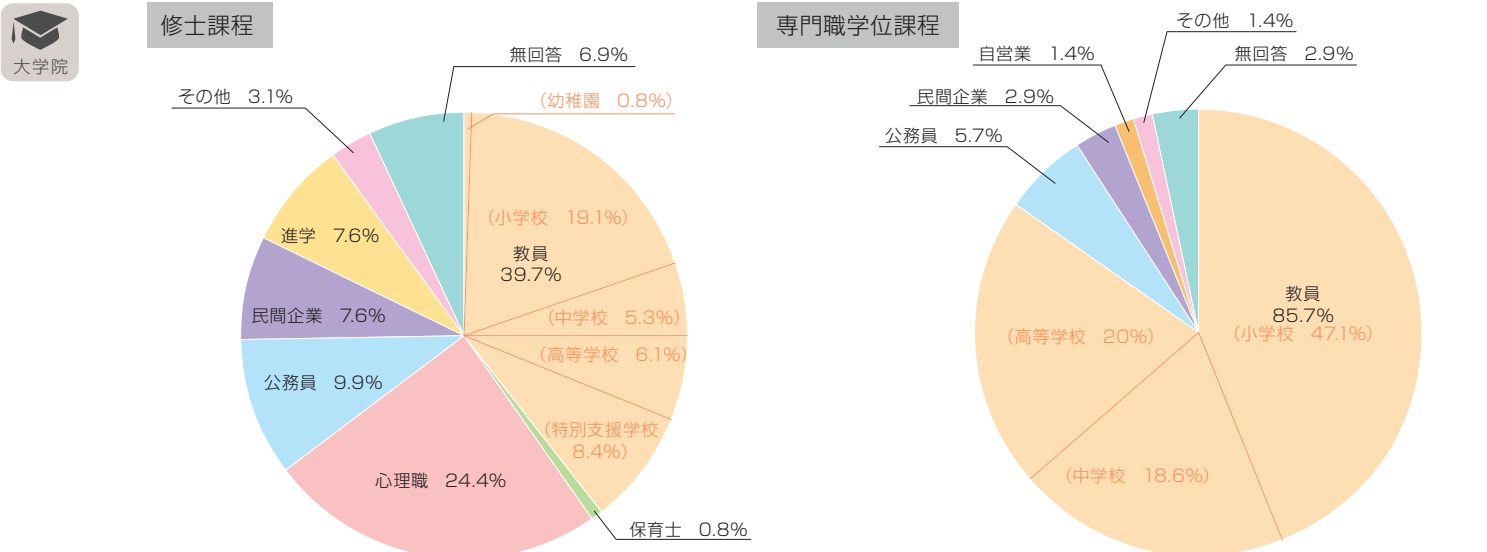
グラフ Q: 卒業後の第1志望進路



大学院生の教員志望者は、修士課程40%、専門職学位課程86%

修士課程の教員志望は、既に職に就いている者を除いた割合では、修士課程、専門職学位課程ともに教員志望が減少しているのは課題といえる。では、教員志望が86%であり、前回（95%）より減少している。

グラフ Q: 卒業後の第1志望進路はなんですか。（職に就いている者を除く）





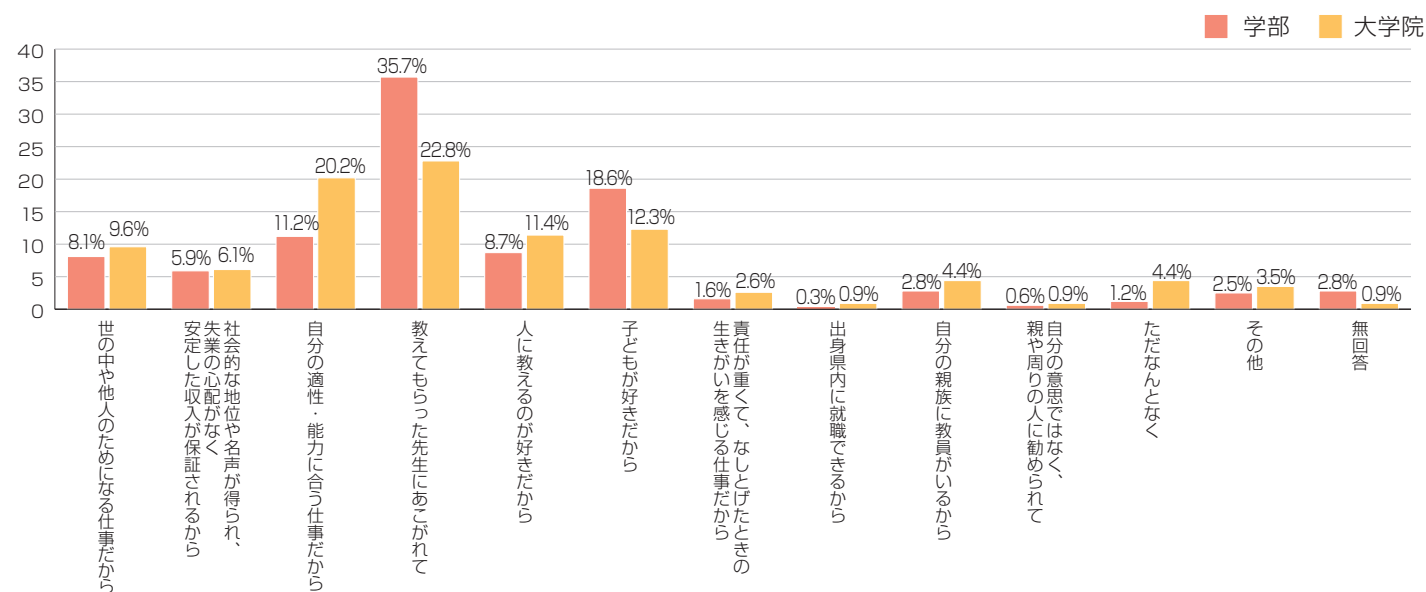


## 教員志望理由の1位は、学部生、大学院生ともに「教えてもらった先生にあこがれて」

学部生の教員志望理由の1位は「教えてもらった先生にあこがれて」(36%)、2位は「子どもが好きだから」(19%)、3位は「自分の適性・能力に合う仕事だから」(11%)となっている。1位、2位、3位ともに前回と同じである。

大学院生の教員志望の1位は「教えてもらった先生にあこがれて」(23%)、2位は「自分の適性・能力に合う仕事だから」(20%)、3位は「子どもが好きだから」(12%)となっている。1位と3位は前回と同じである。

グラフ Q:教員・保育士に就きたい理由(教員、保育士に就きたいと回答した者のみ)



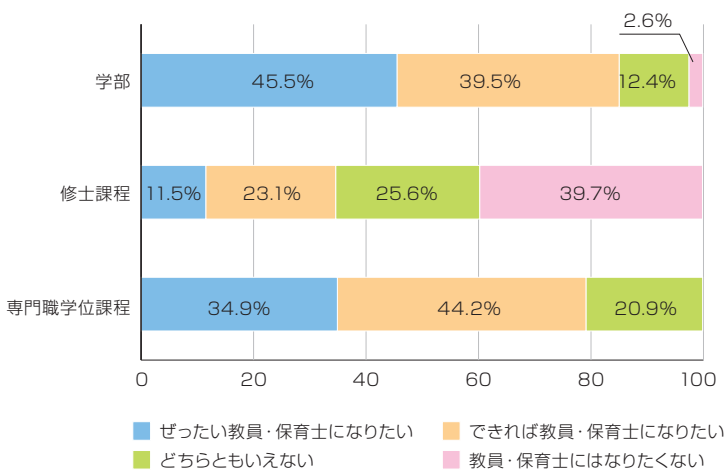
「ぜったい・できれば」教員・保育士になりたいのは、学部生85%、修士課程35%、専門職学位課程79%

教員・保育士を志望しない理由の1位は、学部生、大学院生ともに「自分の適性・能力に合っていないから」



現在の教員・保育士への志望度は、「ぜったい教員・保育士になりたい」と「できれば教員・保育士になりたい」を合わせて、学部生85%、修士課程35%、専門職学位課程79%であった。前回との比較では学部生(前回83%)は増加しているが、修士課程(前回42%)、専門職学位課程(前回94%)は減少している。特に専門職学位課程は前回・前々回(91%)と90%台が続いていた中で今回の減少は課題といえる。

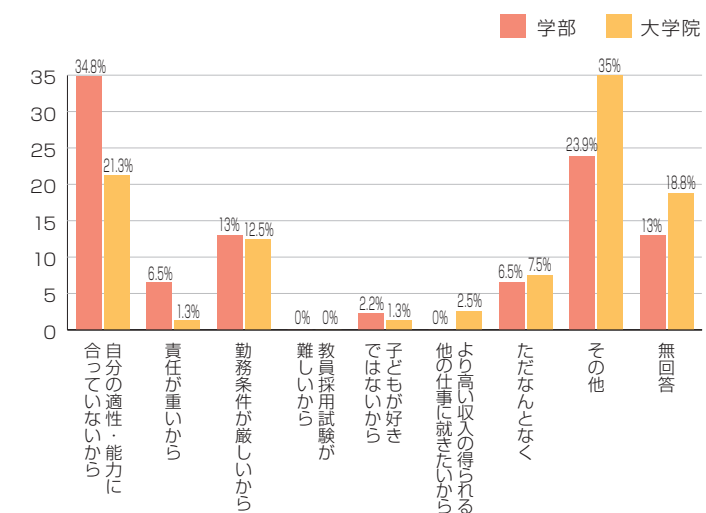
グラフ Q:現在の教員・保育士への志望度



学部生の教員・保育士を志望しない理由の1位は「自分の適性・能力に合っていないから」(35%)、2位は「勤務条件が厳しいから」(13%)となっている。大学院生の教員・保育士を志望しない理由も1位は「自分の適性・能力に合っていないから」(21%)、2位は「勤務条件が厳しいから」(13%)となっており、学部生、大学院生ともに同じ傾向となっている。

一方で、「その他」が学部(24%)、大学院(35%(※大学院では最も多い回答))と多く、また、「無回答」も学部(13%)、大学院(19%)と多く、前回調査でも同じ傾向である。次回の調査においては、質問の選択肢などの調査方法の見直しが必要である。

グラフ Q:教員・保育士を志望しない理由

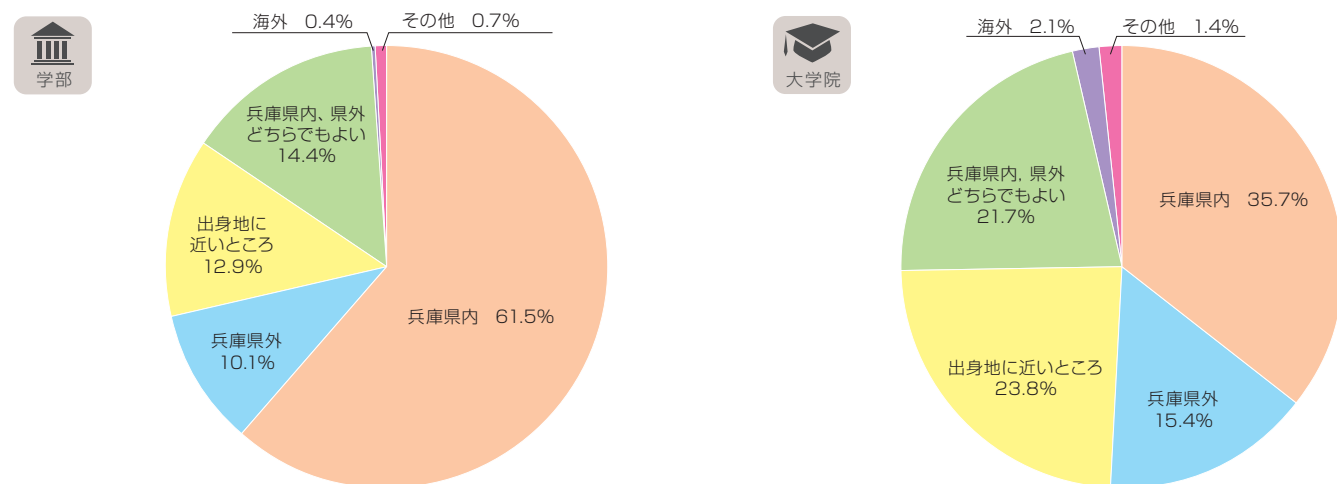


## 学部生の就職希望地域は、兵庫県内が62%

学部生が就職を希望する地域は、兵庫県内が62%で、前回(62%)と同様の結果となっており、依然兵庫県内の希望が高い傾向にある。

大学院生の就職を希望する地域は、兵庫県内が36%(前回41%)と前回より低くなっている。「兵庫県外」は15%(前回13%)、「出身地に近いところ」は24%(前回26%)、「兵庫県内、県外どちらでもよい」は22%(前回19%)であり、学部生よりも多様化している。

グラフ Q:就職する地域

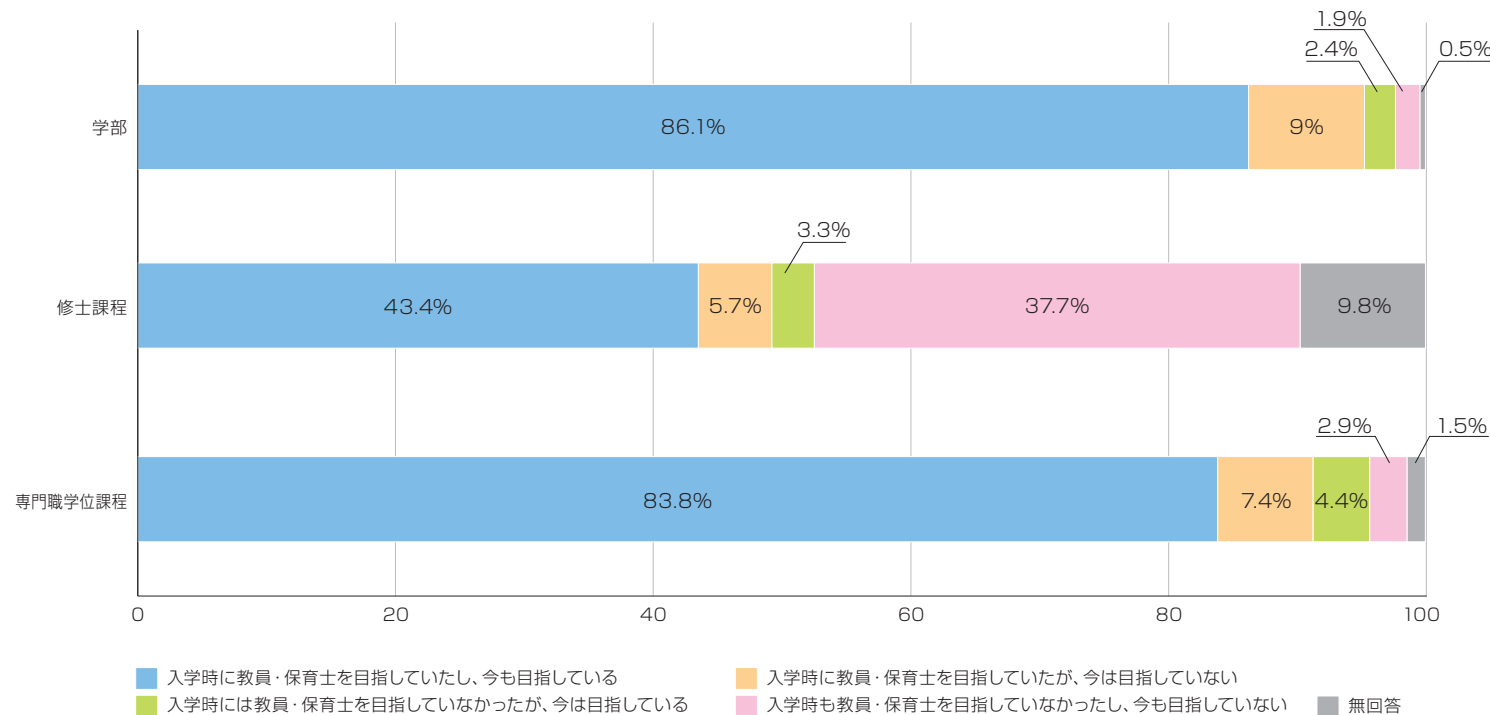


「今も目指している」は、学部生86%、修士課程43%、専門職学位課程84%

教員・保育士志望については、「入学時に教員・保育士を目指していたし、今も目指している」は学部生86%(前回87%)、修士課程43%(前回49%)、専門職学位課程84%(前回95%)であり、全ての課程で前回より低くなっており、課題といえる。学部生の「入

学時に教員・保育士を目指していたが、今は目指していない」は9%(前回8%)で、専門職学位課程の「入学時に教員・保育士を目指していたが、今は目指していない」は7%(前回0%)であり、ともに前回より増加しており、こちらも課題といえる。

グラフ Q:教員・保育士志望の入学時からの気持ちの変化



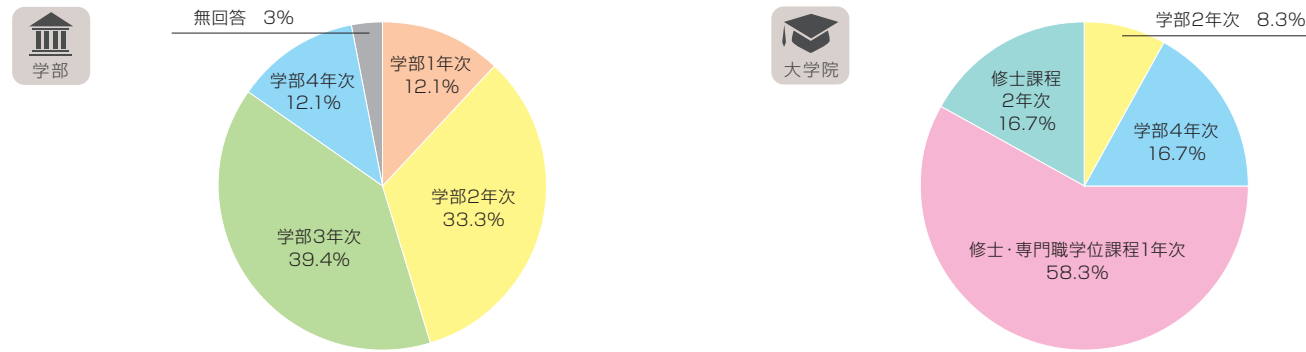


## 学部生の気持ちが「今は目指していない」と変わった時期は、 「学部3年次」39%、「学部2年次」33%

学部生の気持ちが変わった時期は、「学部3年次」39%（前回23%）、「学部2年次」33%（前回26%）、「学部1年次」及び「学部4年次」12%（1年次は前回49%、4年次は前回0%）の順に多く、学部2年次、3年次、4年次が前回より増加している。

大学院生の気持ちが変わった時期は、「専門職課程1年次」42%、「学部4年次」「修士課程1年次」「修士課程2年次」17%（※3つの年次が同割合）の順に多くなっている。

グラフ Q：気持ちが変わった時期（入学時に目指していたが、今は目指していない）

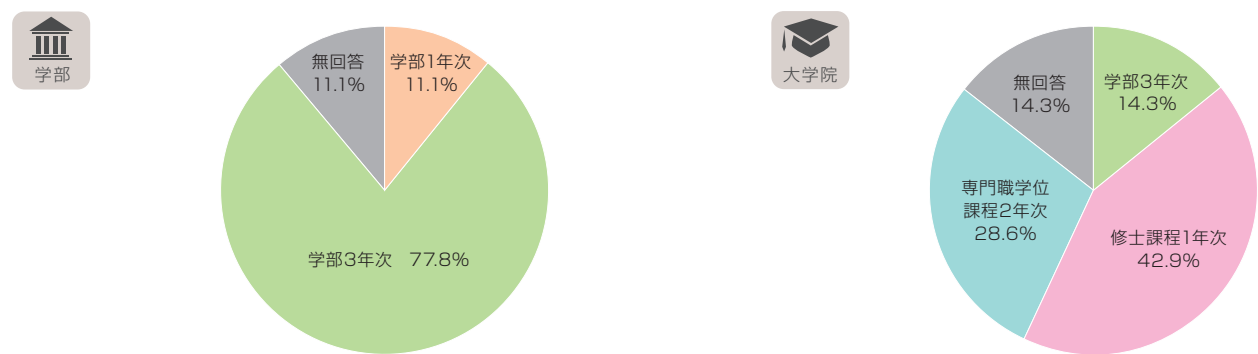


## 学部生の気持ちが「今は目指している」と変わった時期は、 「学部3年次」78%

学部生の気持ちが変わった時期は、「学部3年次」78%、「学部1年次」11%の順に多かった。3年時の教育実習の経験が大きく影響していると考えられる。

大学院生の気持ちが変わった時期は、「修士課程1年次」43%、「専門職課程2年次」29%の順に多くなっている。

グラフ Q：気持ちが変わった時期（入学時に目指していなかったが、今は目指している）

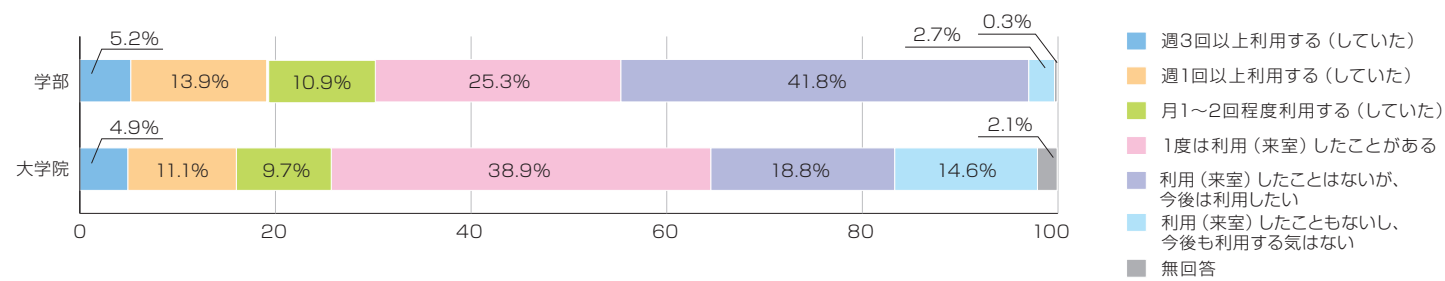


## キャリアセンターは、学部生の55%、大学院生の65%が利用

教職キャリア開発センターを利用（来室）したことがある学生は、全体では58%（前回45%）であり、学部生は55%（前回41%）、大学院生は65%（前回61%）となっており、いずれも前回より増加

しているが、前回時点は新型コロナウイルス感染症拡大により大学の入構規制等があったことも影響していると考えられる。専門職学位課程は80%が利用となっており、前回（82%）、前々回（79%）に引き続き、高い利用となっている。

グラフ Q：教職キャリアセンターの利用



## 学生寄宿舍

Hyogo University of Teacher Education

学部生の34%、大学院生の12%が居住

学生寄宿舍の入居状況は、学部生は34%（1年次40%、2年次35%、3年次31%、4年次28%）、大学院生は12%（修士13%、専門職13%、博士0%）が「入居している」に該当していた。前回調査では学部生36%、大学院生20%であったことから、全体的に入居率が低下している。学生寄宿舍に入居して満足しているところについては、学部生、大学院生ともに上位2位が「入居費が安い」「構内にあり便利」であった。3位については、学部生・大学院生ともに「個室である」であった。

学生寄宿舍の入居者が、土足での出入りや迷惑駐車等、入居者規則の違反が生じていることについて、学部生は41%が「現状のままでよい」、42%が「入居者の規則や心得をさらに厳しくして違反者には厳正に対処する」、12%が「入居者の自覚を促すための対策を講じる」といったように現状維持への志向が若干多い。大学院生については、それぞれ34%、37%、20%であった。

学生寄宿舍の清掃や消防訓練等、嬉野村厚生会の自治活動への参加について、「いつも参加している」のは学部生25%（1年次28%、2年次34%、3年次16%、4年次20%）、大学院生31%

（修士29%、専門職33%）であり、その内訳をみると専門職学位課程の大学院生の参加率が高い。

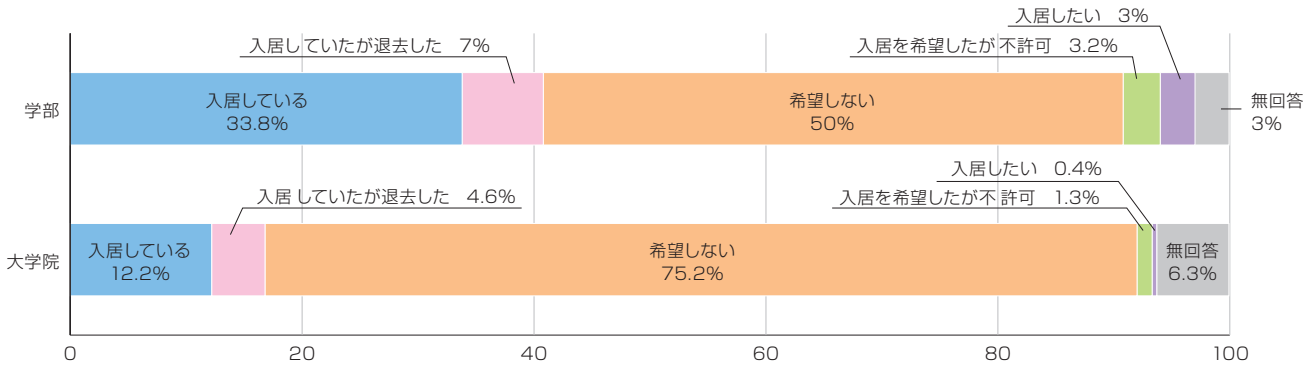
学生寄宿舍の入居者全員が快適に過ごせるようコミュニケーションを深める工夫については、「現状のままでよい」（学部生76%、大学院生55%）、「集会所を設ける等、施設・設備を改善する」（学部生17%、大学院生15%）、「学生寄宿舍のイベントを行う」（学部生8%、大学院生20%）であった。

学生寄宿舍での生活に何を望むかについて、上位には「寄宿舍がきれい」「入居費が安い」「部屋内に風呂やトイレがある」「部屋がある程度広い」である。なお、管理人の有無や、食堂・フリースペースがあることは、前回と同様にあまり重視されていない。

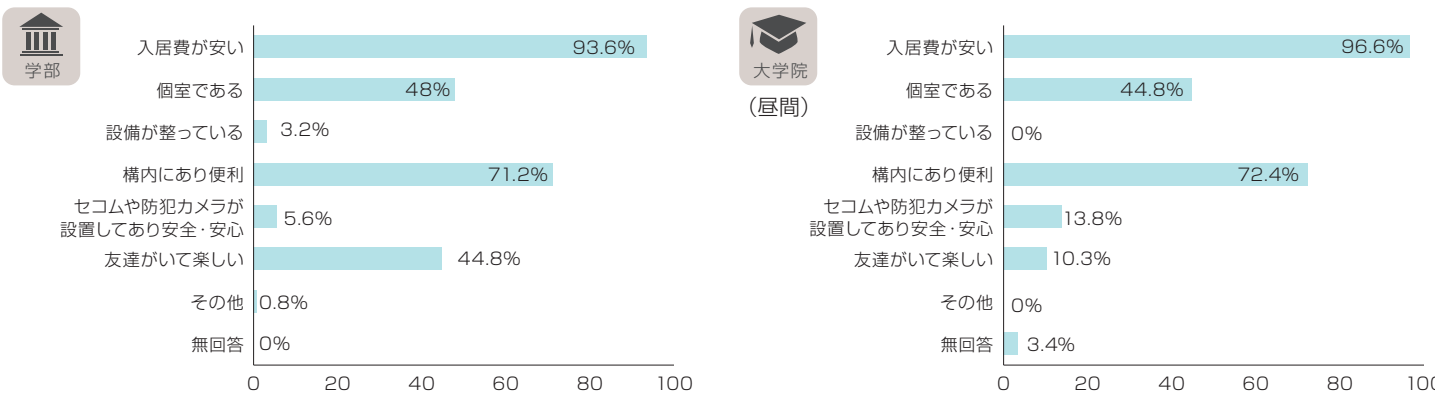
民間のアパート等に入居する場合、家賃（光熱水費を含む）はいくらまであれば入居するか、については、価格帯にばらつきがなかった。

前年度からの変化として、それぞれの質問に対する各回答の割合の変化は大きくなかった。学生生活の状況の変化に合わせて、適切なサポートが求められると考えられる。

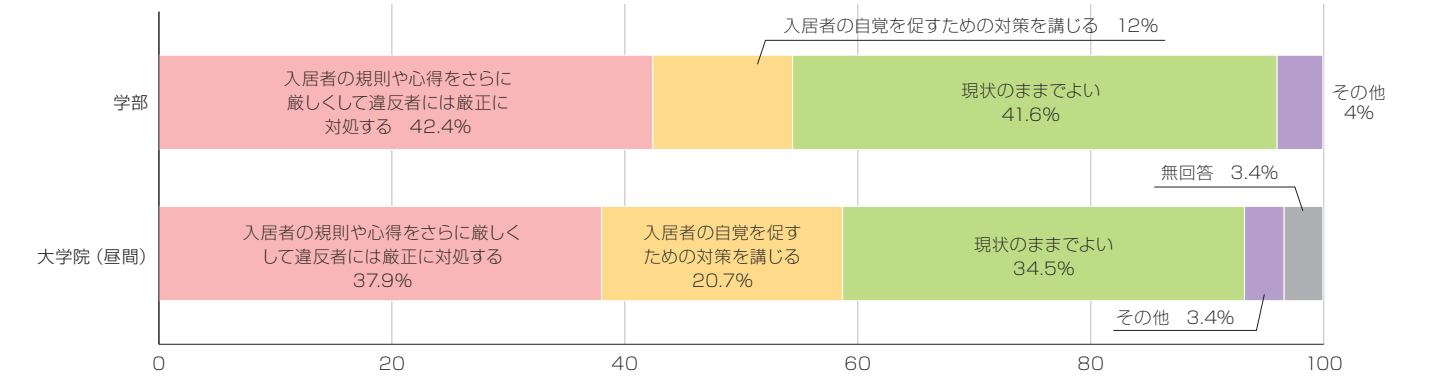
グラフ Q：学生寄宿舍の入居についてお答えください。



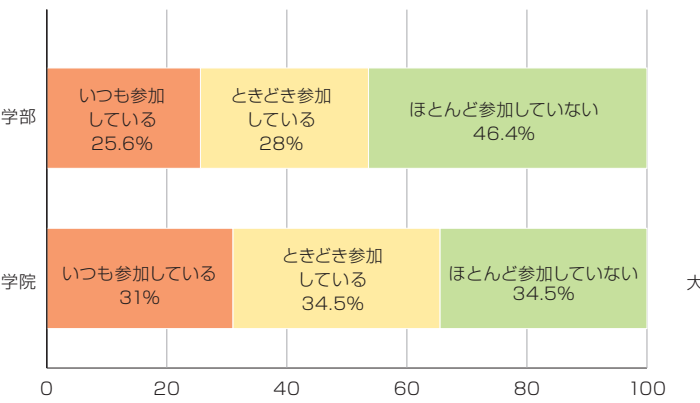
グラフ Q：入居していて、満足しているところはどこですか。



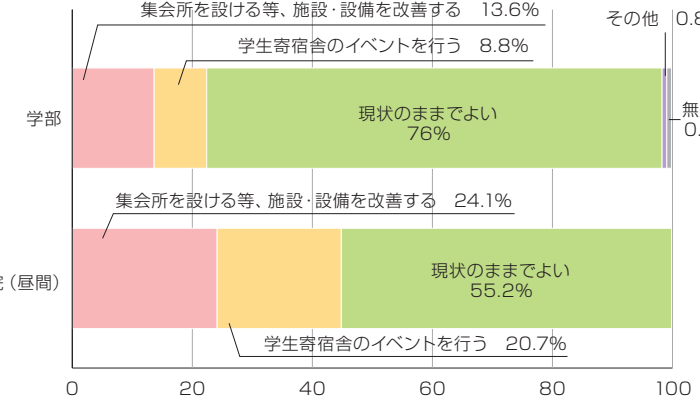
Q：近年、学生寄宿舎において、土足での入出、迷惑駐車等、入居者規則や心得を守らない事例が発生していますが、規則違反問題についてどのように考えますか。



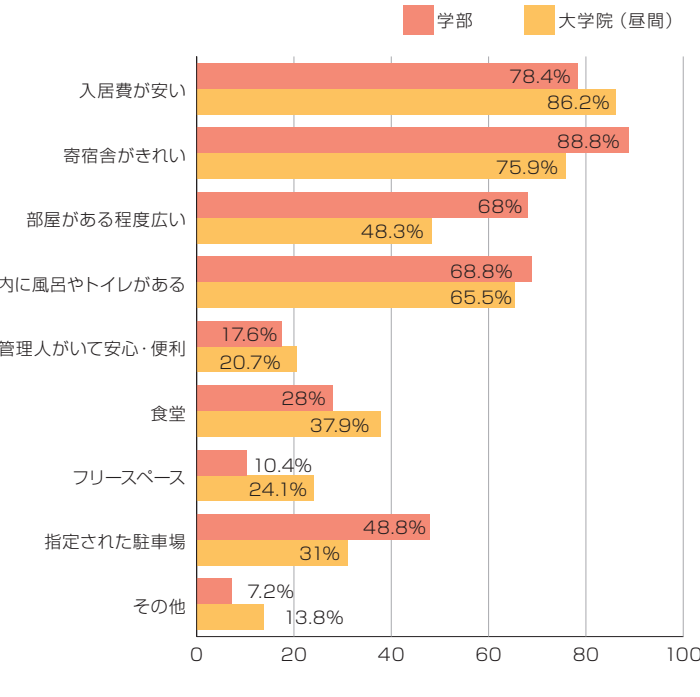
Q：学生寄宿舎の清掃や消防訓練等、嬉野村厚生会の自治活動に参加していますか。



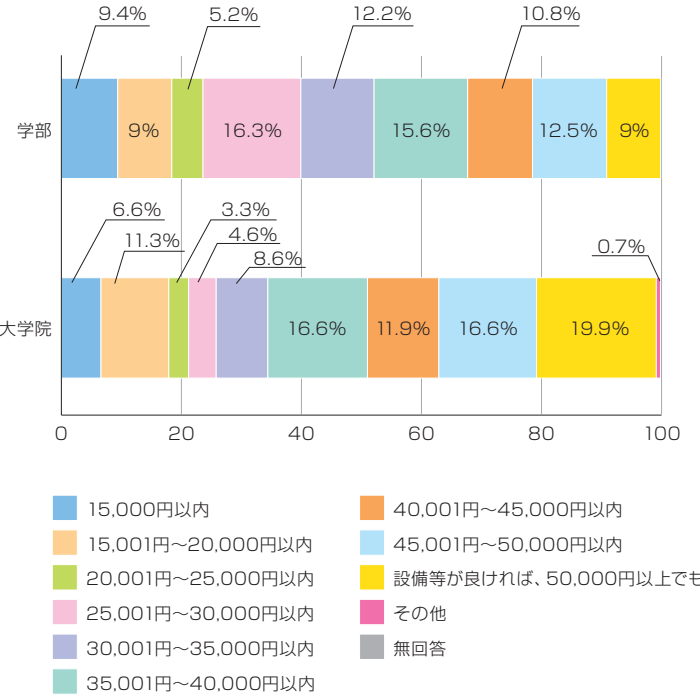
Q：学生寄宿舎の入居者全員が快適に過ごせるよう、入居者同士のコミュニケーションを深めるため、どのようにすればいいと考えますか。



Q：学生寄宿舎での生活に何を望みますか。



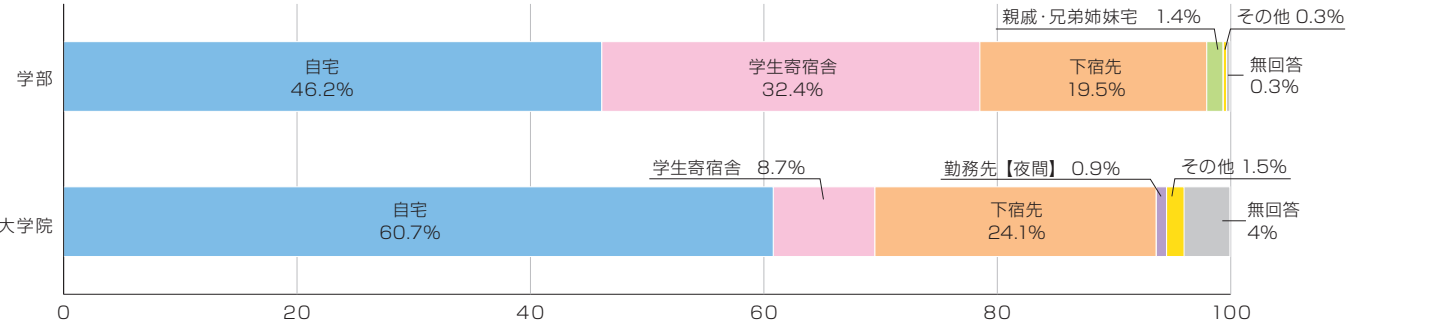
Q：民間のアパート等に入居する場合、家賃（光熱水費を含む）は、いくらまでであれば入居しますか。（「独身」「単身」の者のみ）



学生がどこから通学しているかについては、「自宅」53%、「学生寄宿舎」21%、「下宿先」21%の順に多い。学部生は「自宅」46%、「学生寄宿舎」32%、「下宿先」20%である一方で、大学院生は「自宅」61%、「学生寄宿舎」9%、「下宿先」24%と自宅からの通学率が高い。

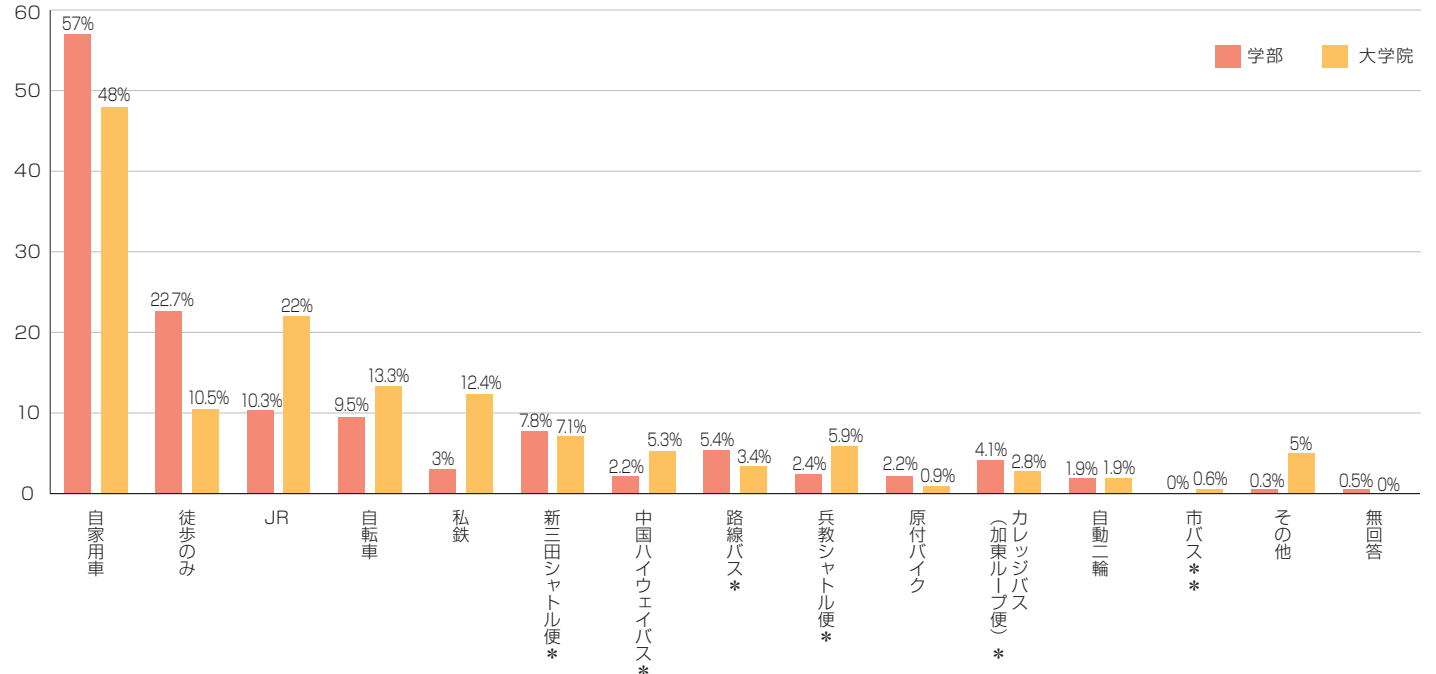
通学手段については、学生全体として、「自家用車」が53%（学部生57%、大学院生48%）、続いて「徒歩」が17%（学部生23%、大学院生11%）、「自転車」が11%（学部生10%、大学院生13%）であった。また周辺の公共交通機関である路線バス（学部生5%、大学院生3%）や中国ハイウェイバス（学部生2%、大学院生5%）、JR（学部生10%、大学院生22%）、私鉄（学部生3%、大学院生12%）などの利用や、大学が提供している新三田シャトル便（学部生8%、大学院生7%）、兵教シャトル便（学部生2%、大学院生6%）、カレッジバス（加東ループ便）（学部生4%、大学院生3%）の利用もあった。

Q：大学へはどこから通学していますか。



Q：通学に何を利用していますか。

大学院については、\*は（昼間）のみ、\*\*は（夜間）のみ回答。





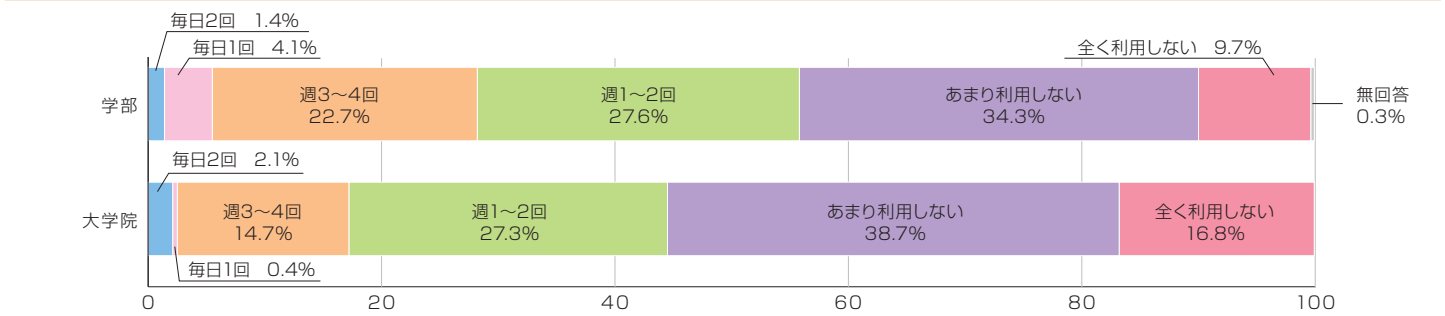


食生活について、【朝食】を食べる場所は、「自宅」55%、「学生寄宿舍」17%、「下宿先」10%、の順に高い。【朝食】を「あまり食べない」者は8%（学部生の11%、大学院生の4%）、「ほとんど食べない」者は9%（学部生の11%、大学院生の6%）と両者合わせると17%であった。

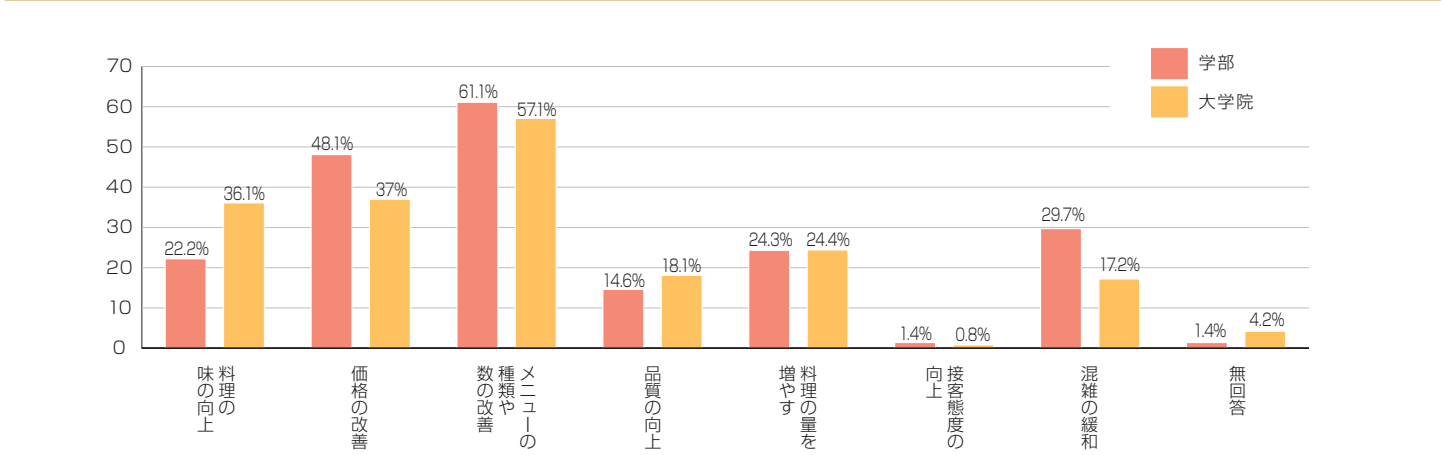
【昼食】を食べる場所は、「大学食堂」42%、「自宅」19%、「学生寄宿舍」13%、「下宿先」5%の順に高かった。「学外の飲食店」で食べる割合については、全体で5%である。【昼食】に使える金額について「メニューや内容等が良ければ550円以上でも可」29%、「451円～500円」25%、「351円～400円」15%の順に高い。

【夕食】を食べる場所は、「自宅」62%、「学生寄宿舍」15%、「下宿先」11%の順に高い。「学外の飲食店」で食べるという割合は、全体で7%であった。

グラフ Q：大学食堂をどれくらい利用しますか。



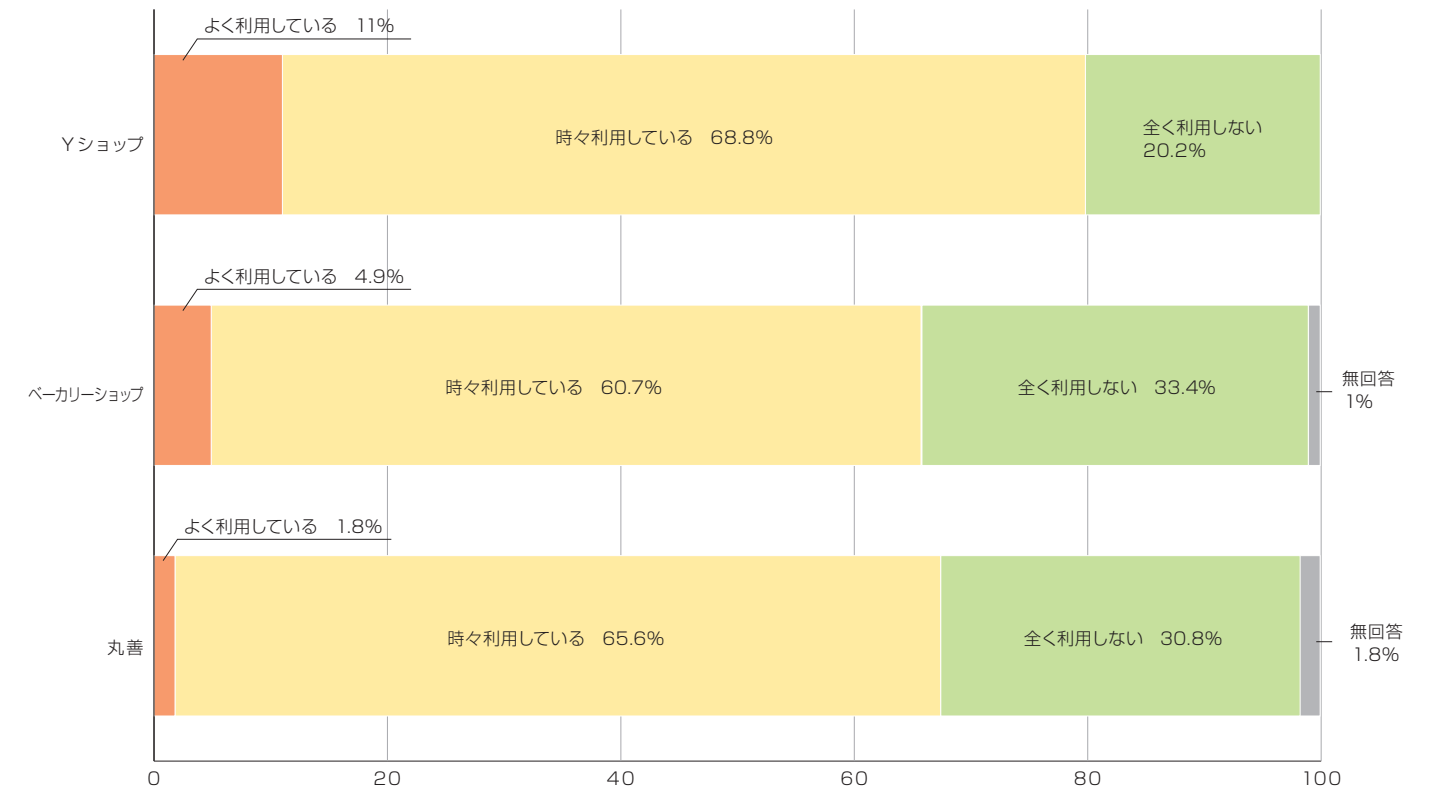
グラフ Q：今後、大学食堂に希望することは何ですか。（3つまで回答可）



学内の①売店（Y ショップ）、②ベーカリーショップ、③書籍売店（丸善）について、「よく利用している」「時々利用している」を合わせた割合（全体）は、それぞれ①80%、②66%、③67%である。特に、書籍販売（丸善）について、大きく低下している。①売店については、「全く利用しない」と回答した者は20%と、前回の調査（31%）よりも改善した。また、②ベーカリーショップと③書籍売店（丸善）を「全く利用しない」と回答した者がそれぞれ②33%、③31%であった。

①売店（Y ショップ）に希望することとしては、「食料品の種類や品数の改善」63%、「営業日・時間の改善」28%、「価格の改善」52%が上位3位にあり、前回調査よりも価格の改訂についての希望の割合が高かった。今後は、学生の意見を反映しながらキャンパスライフの改善につなげていく必要があると考えられる。

グラフ Q：現在の日用品売店（Yショップ）、ベーカリーショップ、書店売店（丸善）をどの程度利用していますか。

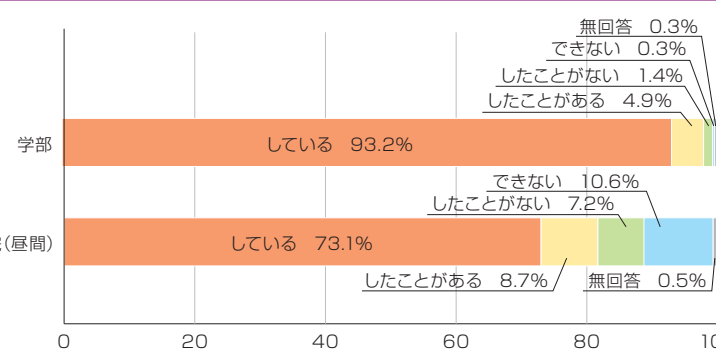




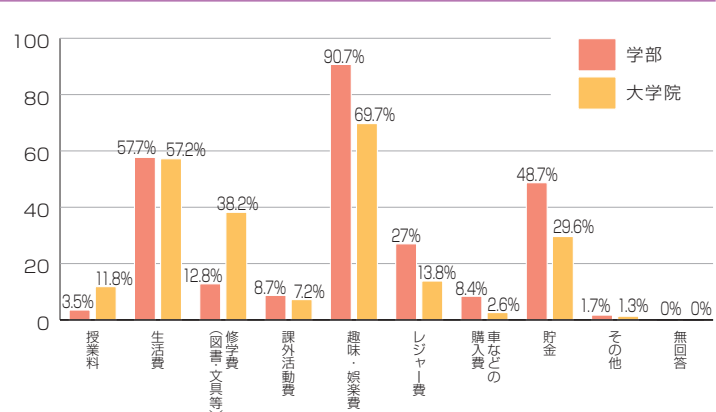


「アルバイトをしている・したことがある」という学生の割合は、2 年からさらにアップしており（学生全体で 92.2%：学部は 98.1%、大学院 81.8%）、学部・大学院ともに約 10 ポイント高くなっている。学部生においては、1週間の従事日数は週3日以上が 83.2%（週 4 日以上も半数）、従事時間については 3 人に1人が 8 時間以上と相変わらず高いが、

Q：本学に入学後アルバイトをしていますか、または、したことがありますか。



Q：アルバイト収入の主な使途は何ですか。



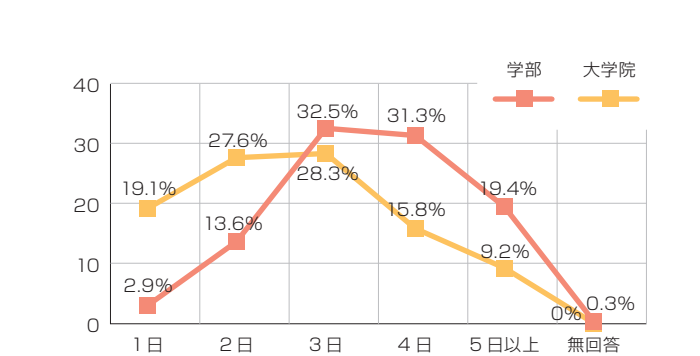
「アルバイト収入の使途」の全体的傾向としては、第一位が「趣味・娯楽費」、第二位が「生活費」とその割合に大きな変化はなかったが、学部生においては趣味・娯楽費の割合が 90.7%と高い値を示すとともに、貯金（48.7%）が高い値を示したことは興味深い。また、「生活費」のためにアルバイトするという学生が一定数いることは今も変わらないが、前々回・前回調査に比べてその割合は低下していた（2019 年度 68.1%、2021 年度 59.7%、今回 57.5%）。一方、その「職種」については本学での傾向は変わらず、飲食等の「サービス業」と「塾講師」の割合が4割強を占めていた。

最後に、「支出」面のデータから興味深いものをピックアップしておく。「住居費」が「ゼロ」の割合が学部生では 61.1%と高い値を示した。別設問の「携帯・インターネット等通信費」が「ゼロ（70.8%）」とも関係するが、自宅から通う学生が多くなっていることに加えて、下宿等している場合でも親が住居費を出していることが推測された。

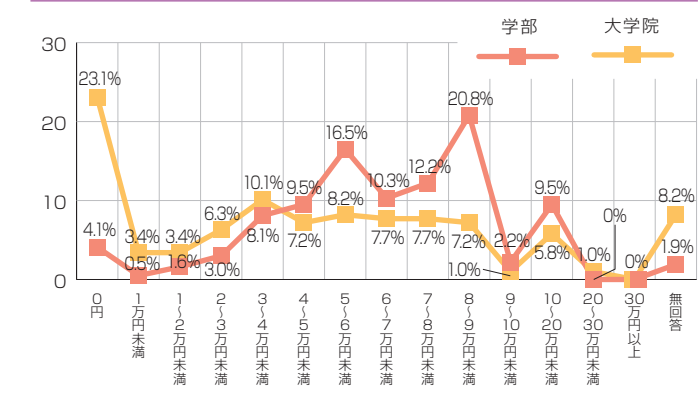
上記のことを総合すると、今回の調査から学部生・大学院生（特に昼間）ともに生活に占めるアルバイトの比重は年々大きくなっていること、その使途については趣味・娯楽はもちろんであるが、貯金や生活のためという現実的な側面が見られることが明らかとなった。なお、前々回・前回調査で指摘された「アルバイトに関するトラブル」経験の割合に関して大きな変化はなく、相談窓口等の存在についても半数の学生が知っている現状が把握された。

特に注目すべきは「大学院生（昼間）」のアルバイト状況である。彼らの多くはストレート進学してきた学生であると思われるが、半数以上が週3日以上（週4日以上も 31.6%）となっている。『大学院生は研究中心の生活』というかつての認識は今や当てはまらず、大学院生も生活等のためにアルバイトを積極的に行っている実態が看取された。

Q：1週間の平均従事日数は何日ですか。



Q：あなた自身の1ヶ月の収入（アルバイト）



一方、「仕送り」については、「ゼロ」の割合が全体的にこれまでよりも高くなっていた（2019 年度 49.3%、2021 年度 54.4%、今回 58.1%）。ただ、「奨学金」を受けている割合は高くなく、むしろ奨学金「ゼロ」の割合が全体として 73.4%を占めていた。これらから学生の生活に関わる費用はアルバイト収入の比重が高いことが推測される。実際に、グラフから明らかなように、「アルバイト」で 8 万円以上稼いでいる学部生の割合は3割を超えていた。



2023 年 5 月以降、授業については通常化しているが、「附属図書館をどの程度利用していますか」の「ほとんど利用しない」割合は、7.7%（2019）→25.9%（2021）→19.2%（2023）（以降数字が並ぶ場合は調査年順）であり、前回よりは若干戻したものの、前々回の数値には全く近づいておらず、コロナ禍以前以降で、学部生、院生全体として附属図書館の使い方が大きく変わったことは確かである。

そのことを裏付ける内容として、「附属図書館をどのように利用していますか。」では、「PC の利用」が 45.9%→19.3%→15.3%と大きく減少している。学部生全員がタブレットを持っていることが大きく関わっていると考えられる。一方、「コピー・印刷」が 42.3%→38.4%→41.1%とコロナ禍前の状態に戻しており、授業等でのレポート提出などのペーパーレス化はそれほど進んでいないものと考えられる。

「附属図書館のどのスペースを一番良く利用しますか。」では、「2 階の閲覧席」32.0%→43.1%→37.7%と少しポイントを上げる一方、「グループラボ」5.3%→5.8%→11.8%の需要の高まりが目立つ。「PAO（オープンテラスを含む）」51.2%→38.7%→37.7%は下げ止まっているものの、ここは需要の高まりを見せてほしいところであった。図書館 1 階「ラーニングcommons PAO」については多様な工夫が施された多目的空間ではあるが、一般教室等にもグループミーティングに特化した教室が新設されていたりなどするため、使用目的のさらなる多様化もしくは焦点化が今後課題になるだろう。図書館空間におけるラーニングcommonsは資料へのアクセスに優位性があるが、インターネットによる資料検索が主となる状況が増えたコロナ以降の授業等のあり方が図書館の使い方を決定的に変えたともいえる。

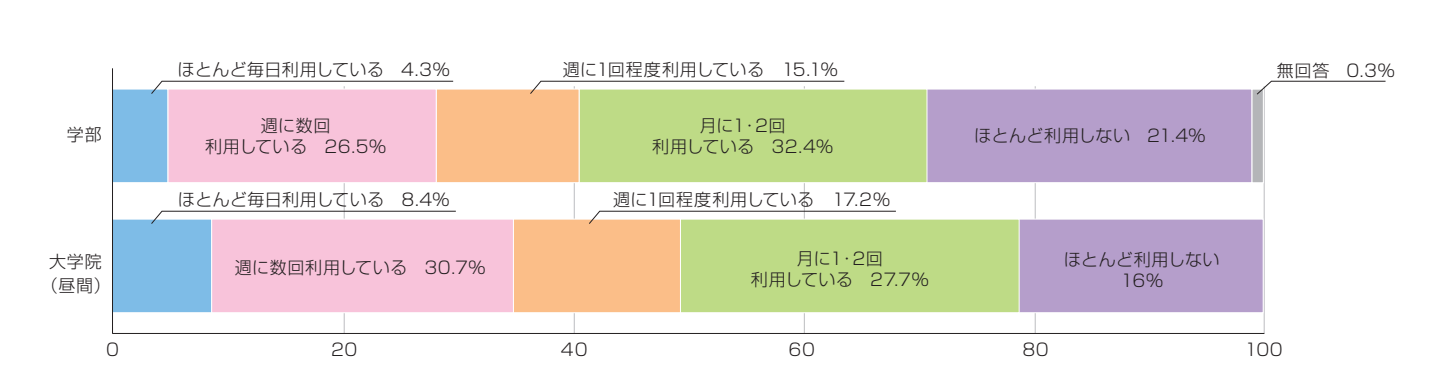
「附属図書館でどのような資料をよく利用しますか。」については、大きな変化はない。目立つところで「雑誌」が 16.8%→8.9%→9.4%、「文芸書・絵本」10.3%→9.5%→10.5%である。利用率が高いとは言えない状況は、目的や置かれているものの幅広さにも関わってくるが、紙媒体ではなくデジタル媒体の優位性が高くなりつつある状況はここからも読み取れるのかもしれない。

「附属図書館で満足しているものを選んでください」では、「情報環境(パソコン、プリンタ、無線 LAN)」が整備されている」が 58.5%

→56.8%→47.9%と若干ポイントを下げ、最新調査で一番ポイントが高くなったのは、「開館日時が長い」41.1%→34.6%→50.0%であった。「様々な学習のための空間が用意されている」32.6%→28.2%→34.4%は安定した数字と見てよいだろう。「空間が快適で利用しやすい」35.5%→41.7%→38.3%は、「カウンターの雰囲気・対応が良い」12.7%→18.3%→20.7%とともに、附属図書館が目指す「カフェのように快適な学習空間」が支持されているものと考えられる。自由記述には BGM についての記述も見られるが、使用目的に応じた多様な空間を使用者が見つけられるのが附属図書館の空間作りではある。また今回のアンケート項目には出てこなかったが、「BLUE CLASS」等附属図書館主催のイベントについて、「イベントが面白い。とても素敵な内容」、「さらにイベントが盛り上がりやすい」と思っています。（ビブリオバトル、ヨガイベント、音楽イベント、英会話、ダンス、読書会）などの記述があった。こうした面白い試みは継続されてこそのものであるが、企画運営の労力も相当なものと推察される。くわえて「附属図書館に併設されている教材文化資料館の展示をどの程度観ていますか。」については、「観たことがない」31.3%→34.2%→29.6%であり、「ほとんど利用しない」層（19.2%）を上回っているところからも、図書館は利用するけれども展示は観たことがない層がいる点が課題であろう。「あることを知らない」11.4%→21.5%→7.4%についてはかなりポイントを下げしており、近年の企画展示、宣伝広報が成果をあげていると捉えることができる。教材文化資料館の展示は、2023 年には「植物に恋して～牧野富太郎のいざない～」として植物学者の牧野富太郎に関わる展示や企画や植物ラリーの企画が行われた。牧野の人生をモデルとした朝の連続テレビ小説「らんまん」の放送と時期が重なっていたこともあり効果的な企画であった。

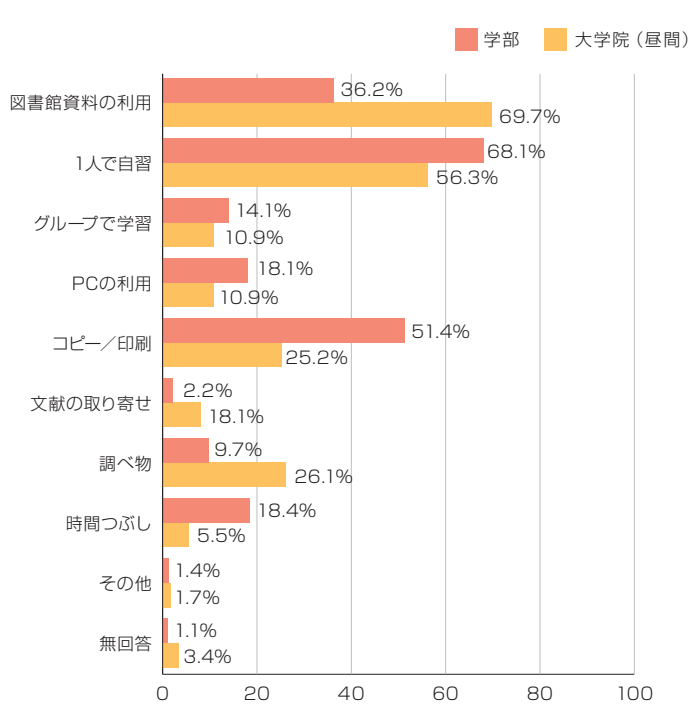
附属図書館の空間は限られており、また予算や人員も限られている。利用する学生としては、「資料の更新」、「開館時間の延長」、「空調の調整」、「Wi-Fi の増強」、「カメムシ対応」などより快適で使いやすい図書館を求めているが、できることとできないことのバランスを見つつ、その中で何ができるのかを模索しているのが本学の附属図書館であり、その前向きな姿勢は今後も続けてもらいたいし、それが利用者全員に伝わると良いと思う。

Q：附属図書館をどの程度利用していますか。

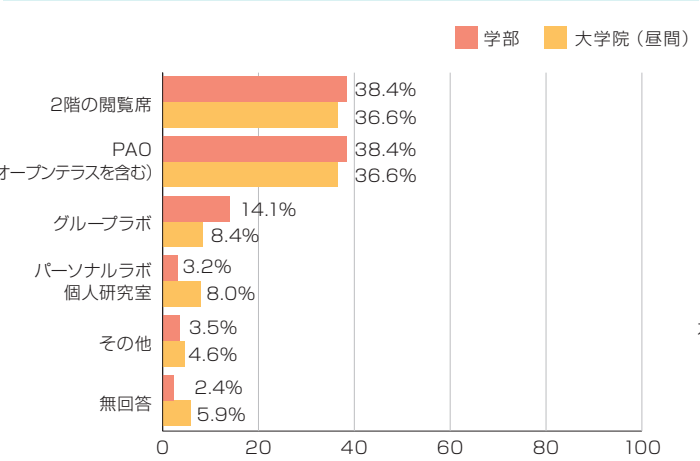




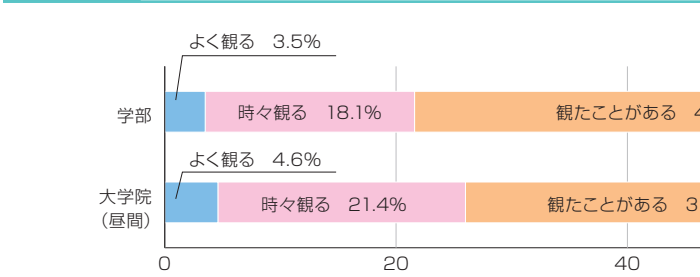
Q：附属図書館をどのように利用していますか。  
(3つまで回答可)



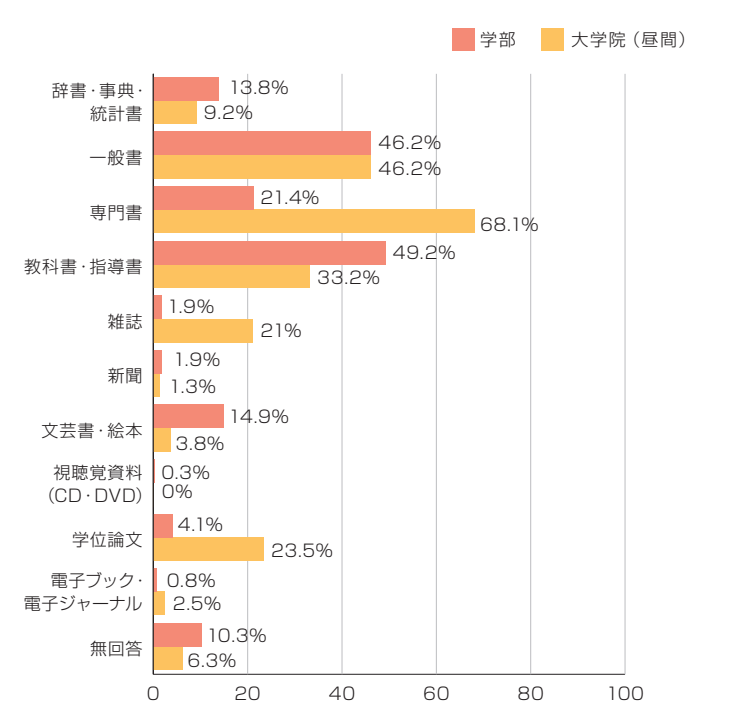
Q：附属図書館のどのスペースを利用しますか。



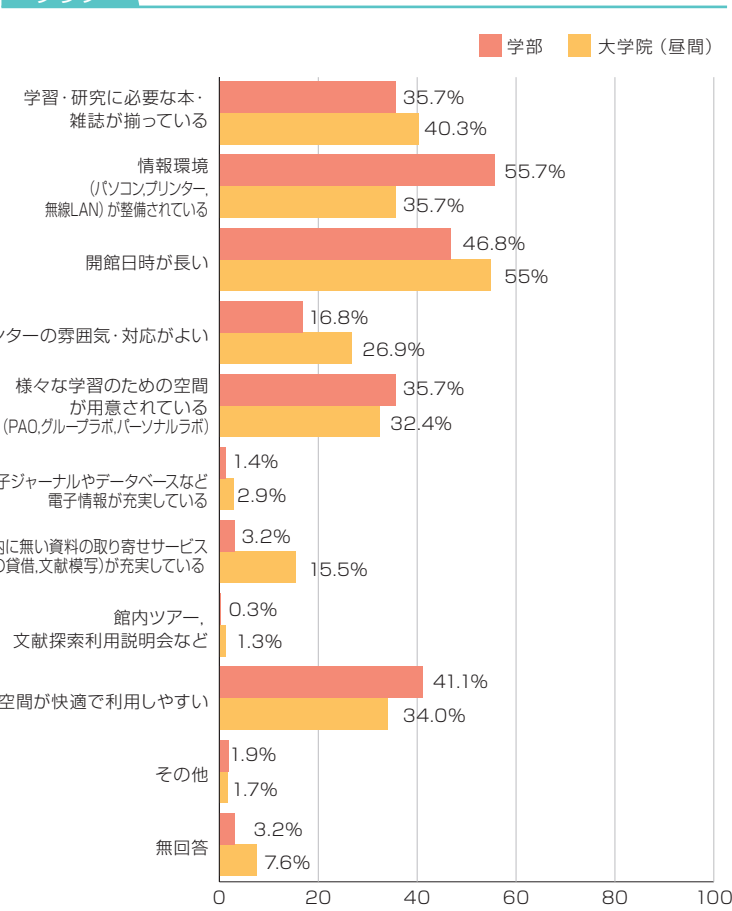
Q：教材文化資料館の展示をどの程度観ていますか。



Q：附属図書館でどのような資料をよく利用しますか。  
(4つまで回答可)

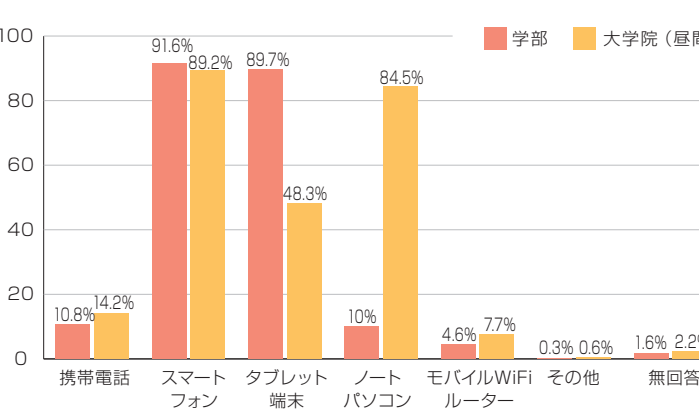


Q：附属図書館で満足しているものを選んでください。  
(4つまで回答可)



「所持している通信端末」について、前回から「タブレット」と「ノートパソコン」が大きく変化している。学部生のタブレット所持は大きく伸びて (前回 60.0%→今回 89.7%)、ノートパソコンはほとんどの学生が所持していない結果 (今回 10.0%) となった。新入学部生のタブレット購入の周知が影響していると考えられる。また、スマホやネット視聴時間は現在のアフターコロナの生活であってもさらにアップして

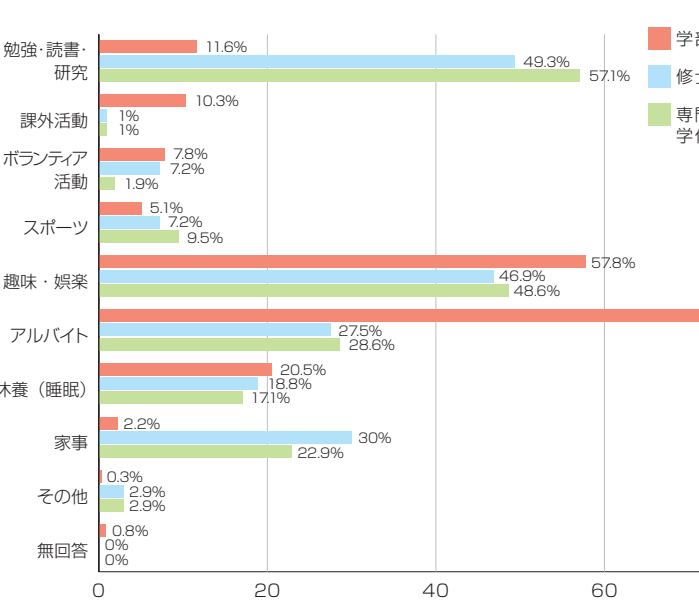
Q：大学内で、電話、メール、ネット閲覧等を行うために、どのような通信端末を所持していますか。



## 学生生活にとって欠かせない「アルバイト」

コロナの影響がなくなり、休日にアルバイトを実施する学部生が V 字回復した (前々回 72.1%→前回 64.5%→今回 77.6%)。大学院生においてもアルバイトや趣味・娯楽を行うものが前回より増えている。また、短時間のバイトではなく 1 日 3 時間以上の割合が多く、特に

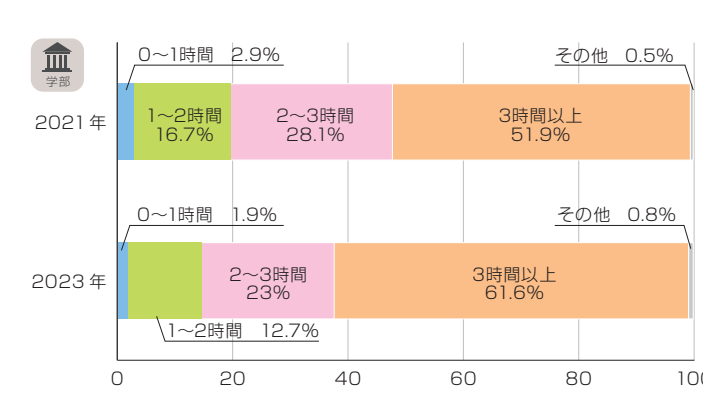
Q：講義のない日や休日をどう過ごしていますか。



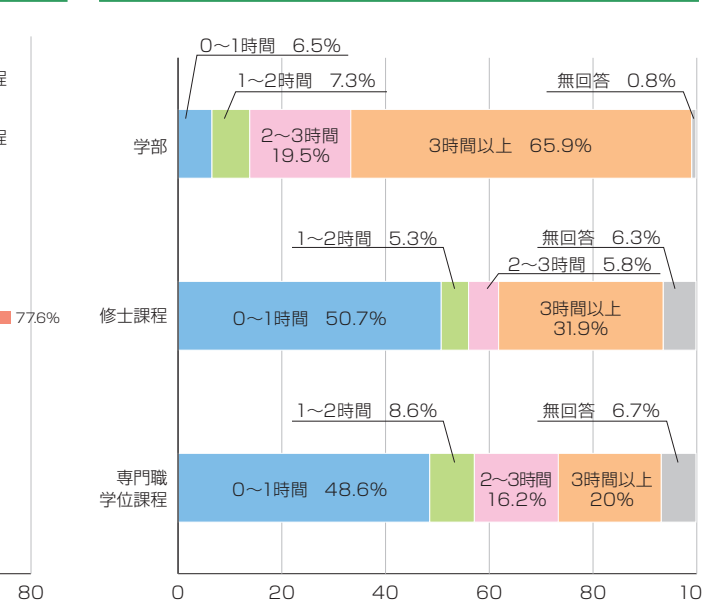
いる (3 時間以上で、前回 51.9%→今回 61.6%)。コロナ前の生活には戻らず、現在の学生はスマホ・ネットが必須となっている。

大学院生においては、これまでもノートパソコンが主要であったものの、今回の調査では「タブレット」が伸びている (前回 34.1%→今回 42.5%)。紙製品のノートに代わるタブレットの利用や、研究活動にも利用している人が増えているのだろうか。

Q：1日のスマートフォンまたはインターネット視聴時間は何時間ですか。



Q：一日の生活時間はそれぞれ何時間ですか。(アルバイト時間)



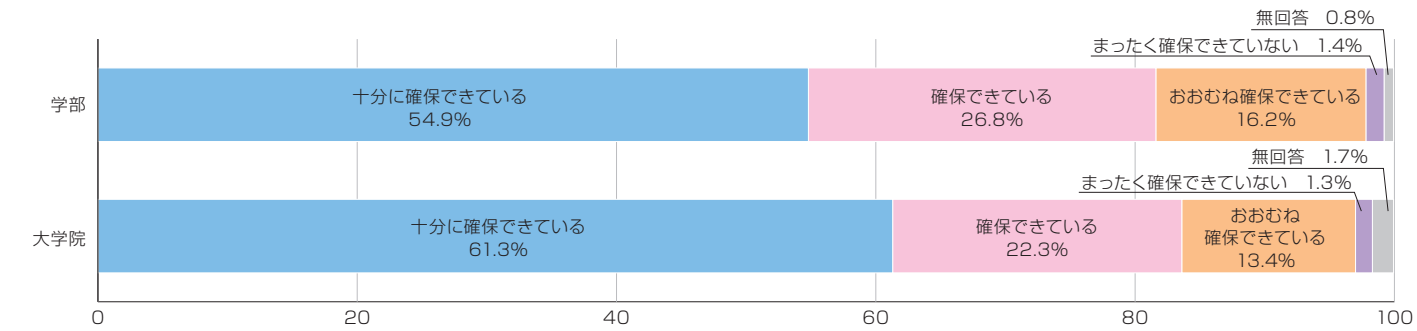


## 学内環境の充実

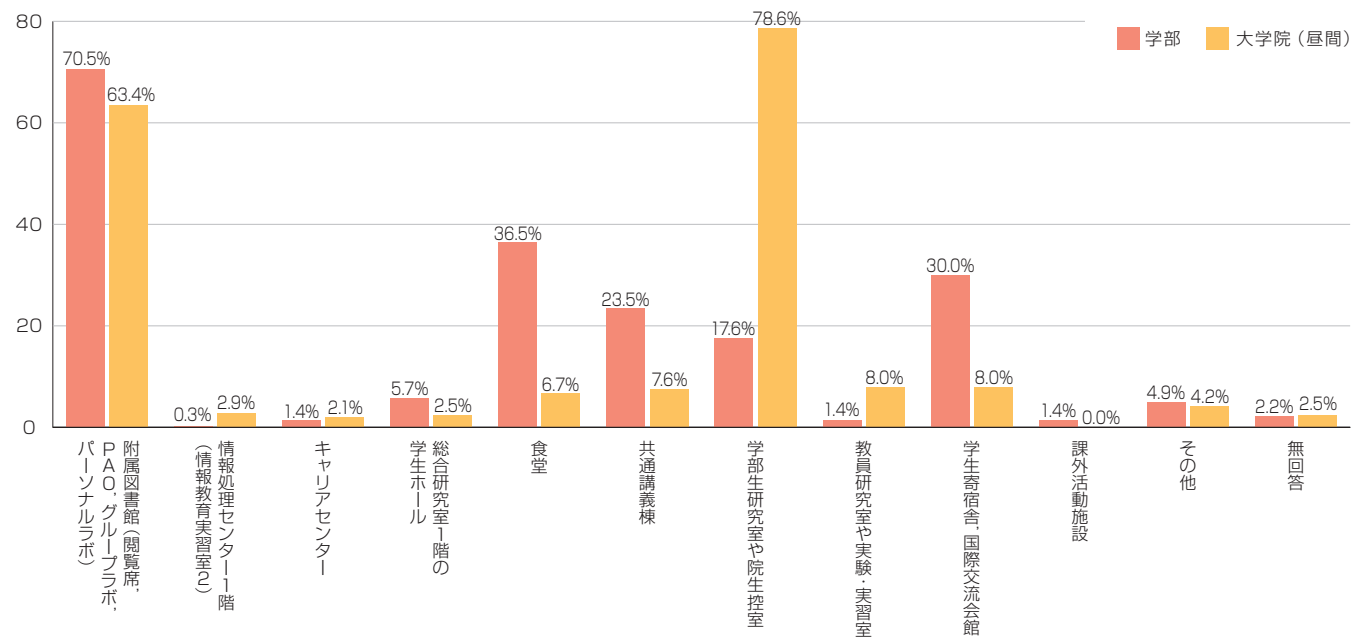
空き時間・自主学習に過ごす場所について、学部生と大学院生ともに「十分に確保できている」と回答する者が半数を越し、前々回・前回から

も伸びている。自主学習を行う場所についても、共通講義棟や研究室・控え室が増え、学内における学生の対面交流が増えていると言える。

グラフ Q：学内の空き時間等を過ごす場所や、自主学習を行う場所について、あなたは十分に確保できていますか。



グラフ Q：学内には自主学習を行う場所として、以下のような施設を整備しています。あなたはどの場所で自主学習を行っていますか。（5つまで回答可）

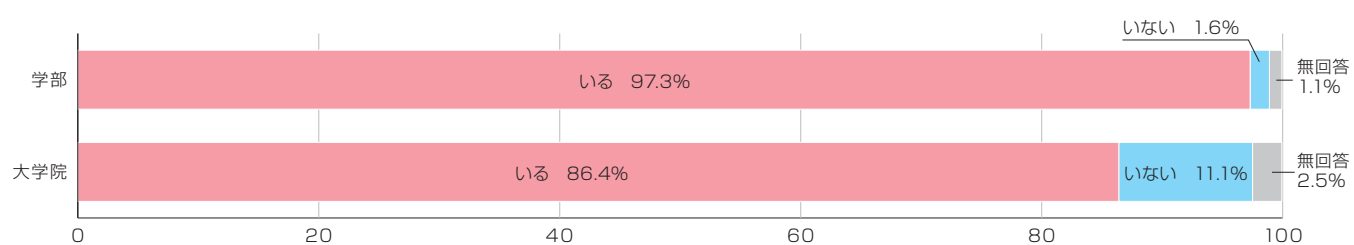


## 学内の友人関係は概ね良好

「現在、学内に親しい友だちがいますか」という問いに対して、学部生は 97.3%、大学院生は 86.4% が「いる」と回答している。また、「いない」と回答している学生が前回・前々回よりも減っていることは、概

ね良好であると言える。しかし、大学院生の約 10% が「いない」と回答している点は少し気になる結果である。アフターコロナ社会において友人関係の作り方が変わってきていると予想されるが、コースや研究室、課外活動を通して今後も様子をみていく必要がある。

グラフ Q：現在、学内に親しい友だちがいますか。



## 課外活動

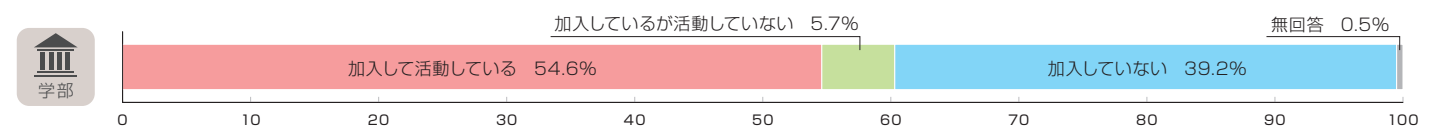
Hyogo University of Teacher Education

### 体育系クラブ活動の変化

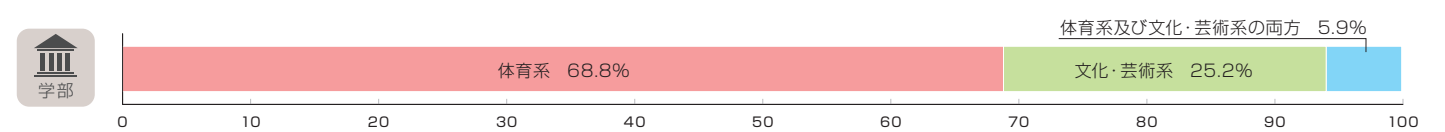
「課外活動団体へ加入して活動している」については、ここ8年間で最も低い値となった（54.6%）。十分に活動が出来ないコロナ禍の前回調査（66.7%）よりも低いことは、学生の生活スタイルの変化を現しているかもしれない。参加者の内訳だが「文化・芸術系」に変化はみられないが、体育系の加入者が大幅に減っている（前回211人→今回139人）。回答総数も減っているため一概に言えないが、体育系の低迷がうかがえる。

加入の動機についてはこれまでと変化がなく「友人がほしい」や「趣味と一致する」などが多い。一方「活動していない。または加入していない理由」は、「通学に時間がかかる」と「アルバイトが忙しい」が多く、学生寄宿舍の入居率の低下やアルバイトの実施率増加が影響していると考えられる。今後の課外活動団体のあり方について検討する必要性がうかがえる。

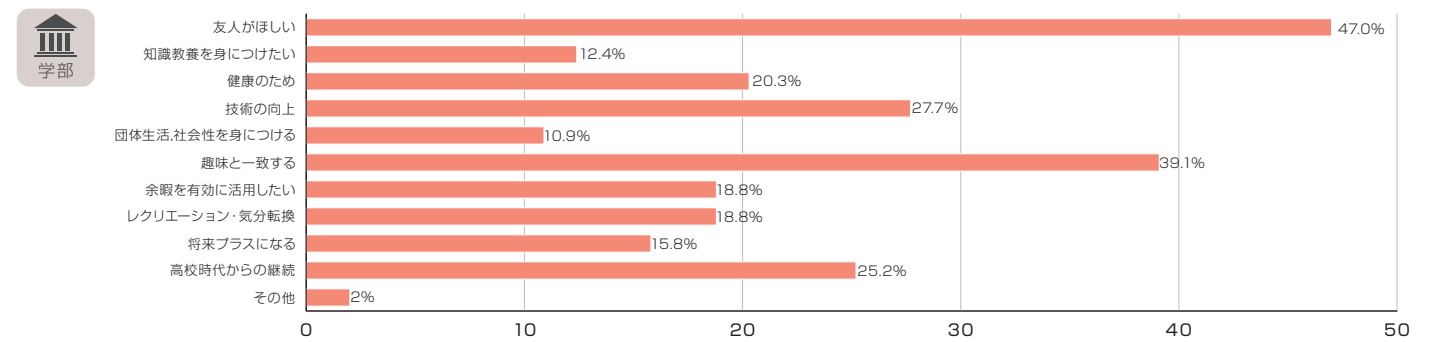
グラフ Q：課外活動団体に加入していますか。



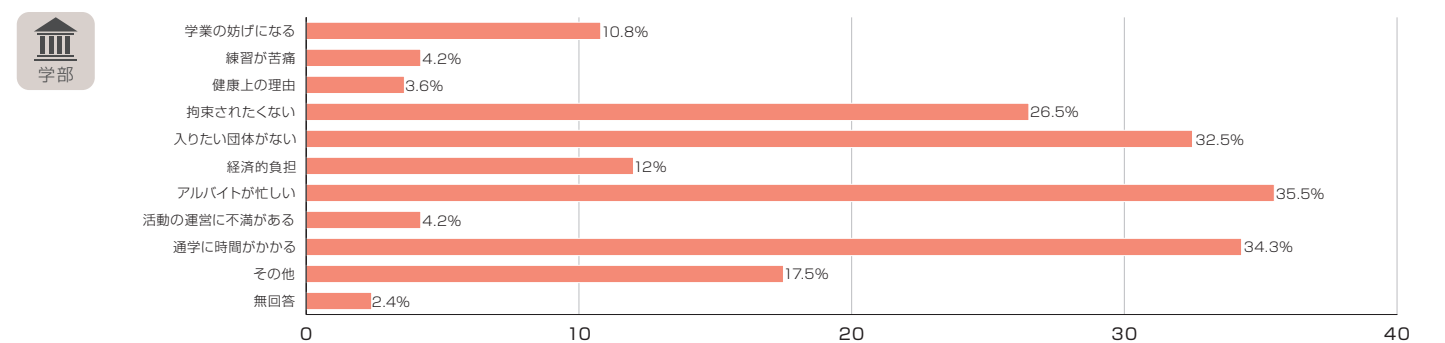
グラフ Q：どのような課外活動団体に加入していますか。



グラフ Q：課外活動団体に加入の動機、理由は何ですか。（「加入して活動している」と回答した者のみ / 3 つまで回答可）



グラフ Q：課外活動していない、または加入していない主な理由は何ですか。「加入しているが活動していない」「加入していない」と回答した者のみ / 5 つまで回答可



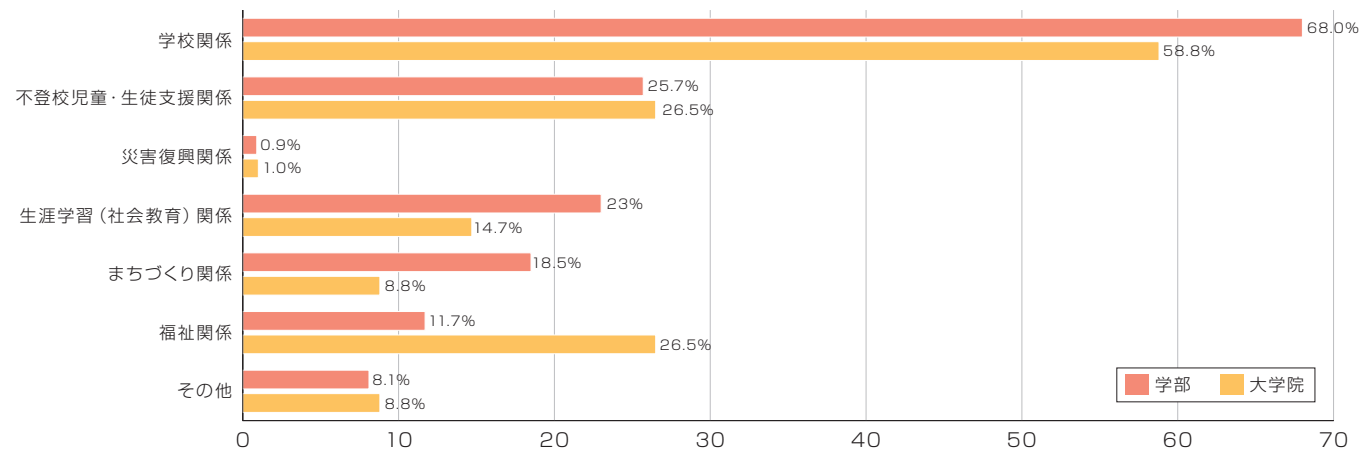




## ボランティア活動の再開

「大学入学後にボランティア活動に参加したことがある」と回答した学部生は60％であり、コロナ前の参加率に復活した。これまで同様「学校関係」の割合が高く維持されているが、今回の調査では「生涯学習関係」が前回・前々回と比較して高くなっているのが特徴である。

グラフ Q：ボランティア活動の内容はどのようなものですか。

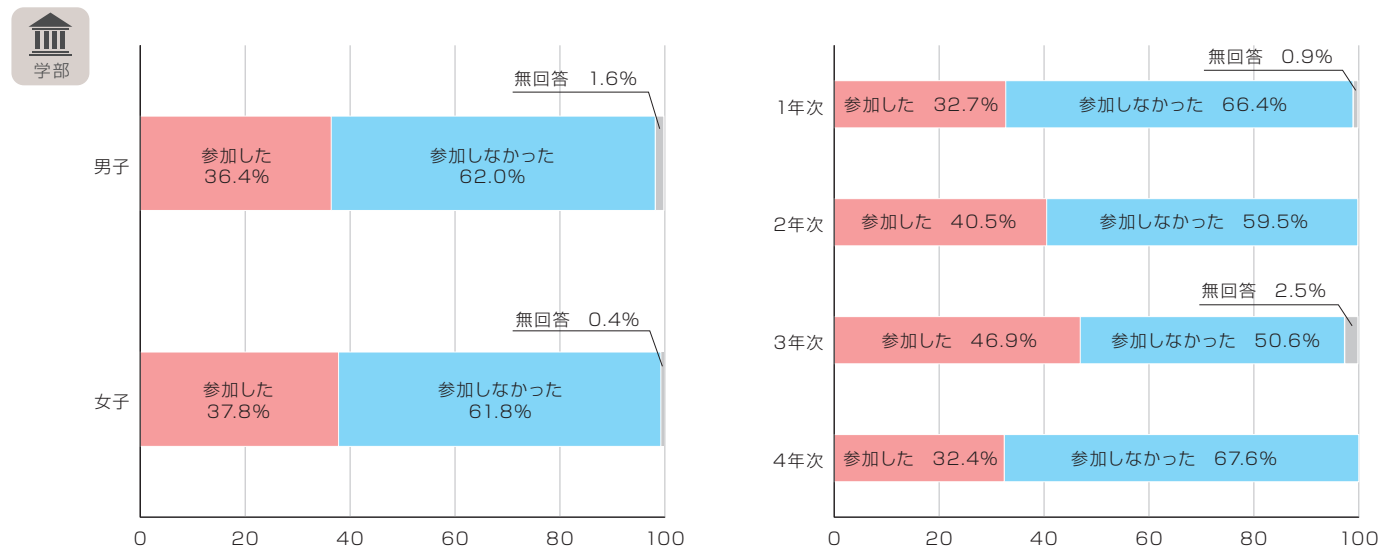


## 魅力ある大学祭(嬉望祭)に向けて

「大学祭への参加」について、コロナ前の調査では約75％であったが、今年度の学部生の参加が 37.3％ と大きく低下した。前回の2021年度調査はコロナによりオンライン開催となったことで参加率が低かったと考えられたが、対面開催に戻った本調査であっても参加

者数は回復しなかった。コロナ前の大学祭へ参加したことのある学生がいけないことが大きな要因であると考えられる。学生生活の様子が変わった現在において、大学祭のあり方について再考する時期になっていると思われる。

グラフ Q：今年度行われた大学祭(嬉望祭)に参加しましたか。



海外への渡航経験は、前回2021年度調査と比較すると、大学院生では約7割(67.2％)とあまり変化がないが、学部生は減少している(今回25.4％、前回35.5％、前々回41.0％)。渡航回数をみると、1回の割合が最も多く、学部生は約5割でほとんど変化がないが、大学院生は25％と増加し、複数回数が減少した。渡航の目的は、学部生・大学院生ともに観光と回答した者が多く全体の約8割を占める。この他、語学研修が続き、大きな変化は見られないが、学部生では留学が減少した(今回6.4％、前回10.1％)。

本学の留学生との交流については、全体では「ある」と回答した割合が前回(24.3％)に比べ増加している(33.2％)。交流はないが興味・関心はある(今回16.9％、前回21.7％)を加えると半数の学生が交流に前向きである。

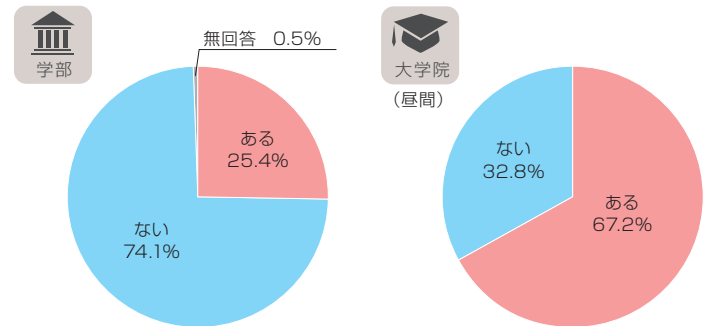
本学が行っている派遣留学制度や海外短期(語学・異文化体験)研修の支援については、半数以上の学生が知っていると回答しているが、どちらにも支援があることを知らない学生は減少したものの半数近くいる(今回44.9％、前回54.1％)。派遣留学、海外短期研修については、行ってみたいと回答した割合がやや減少しており

(今回45.4％、前回51.5％)、この傾向は学部生に顕著である。関心はあるが行かない理由としては、金銭的な理由が多く挙げられていた。行ってみたい国については、半数近くの者が米国(49.7％)、オーストラリア(46.1％)と回答し、以下イギリス、カナダと英語圏が続いており、この傾向は前回と同様である。学部生では韓国の割合が20％で5番目と高く、大学院生との関心の違いが見られる。

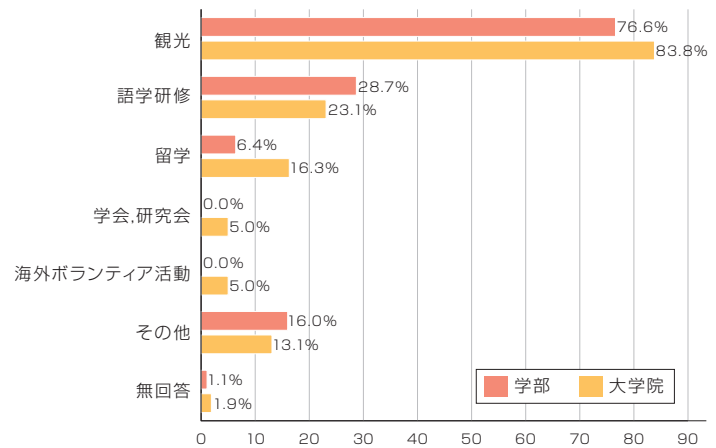
今回の調査結果は、コロナ禍から感染症上の分類が変わった期間(2020年～2023年5月)の状況が影響していると考えられる。具体的には、渡航経験の複数回数が減少したことや留学・短期研修に対して、特に学部生でやや関心が低下していることなどである。しかし、状況が変化したので徐々に改善することが期待される。

一方、本学の支援制度の周知が改善傾向にあるものの、それでも4割近くの学生が知らない現状がある。国際交流の意識を一層高める機会としては、身近な留学生との交流が挙げられる。本学の学生は留学生との交流について前向きな姿勢が窺えることから、さらに留学生との交流の機会を拡充するとともに、金銭面での支援を含めて、本学の支援制度の周知を図ることが大切である。

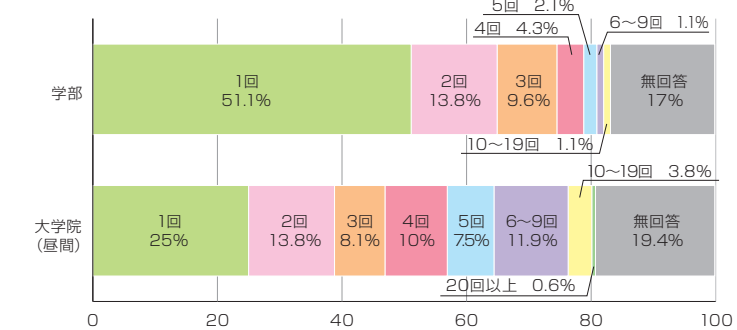
グラフ Q：海外渡航をしたことがありますか。



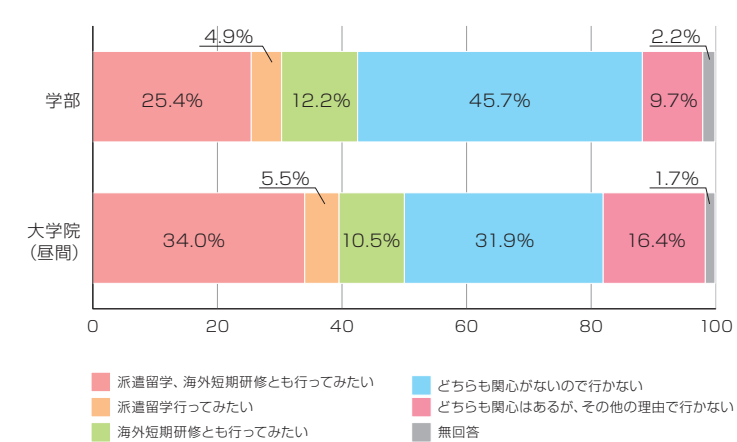
グラフ Q：海外渡航の目的は何ですか。(複数回答可/海外渡航をしたことがあると回答した者のみ)



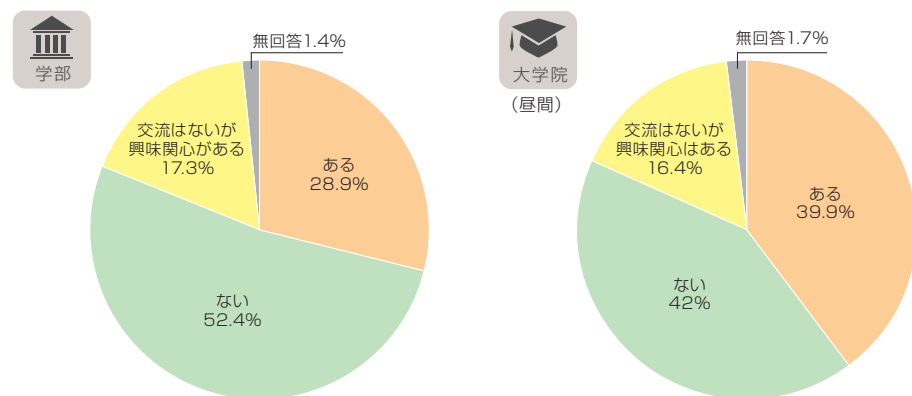
グラフ Q：海外渡航の回数(海外渡航をしたことがあると回答した者のみ)



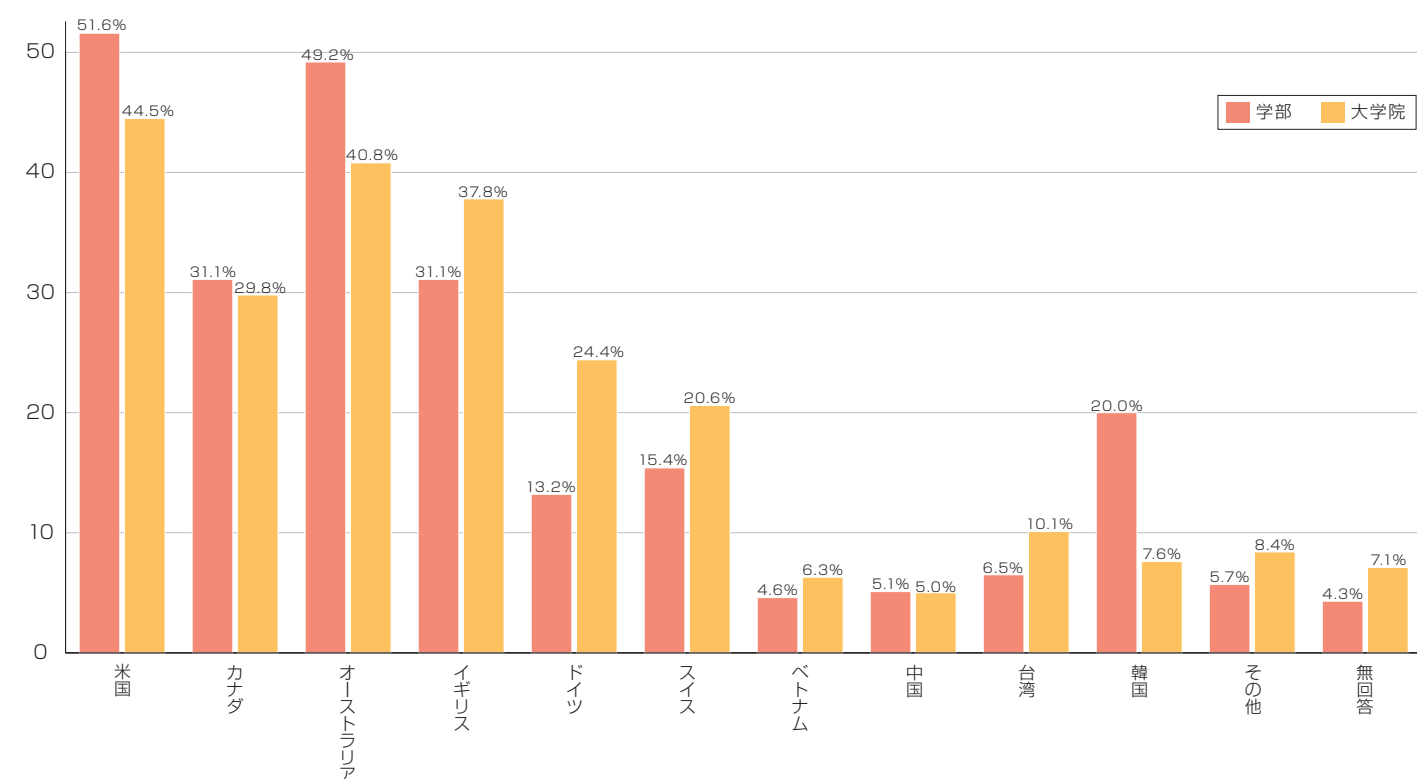
グラフ Q：派遣留学、海外短期(語学・異文化体験)研修に行きたいですか。



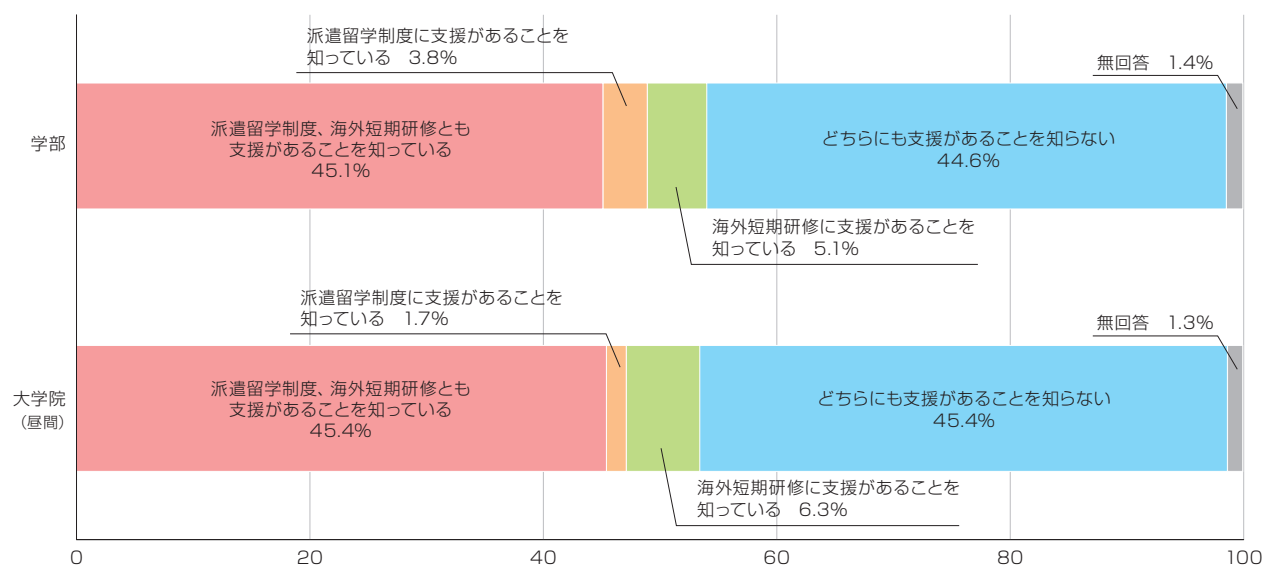
グラフ Q: 本学の留学生との交流はありますか。(留学生は日本人学生との交流について回答)



グラフ Q: 海外短期 (語学、異文化体験) 研修に行くとしたら、どの国・地域に関心がありますか。(3つまで回答可)



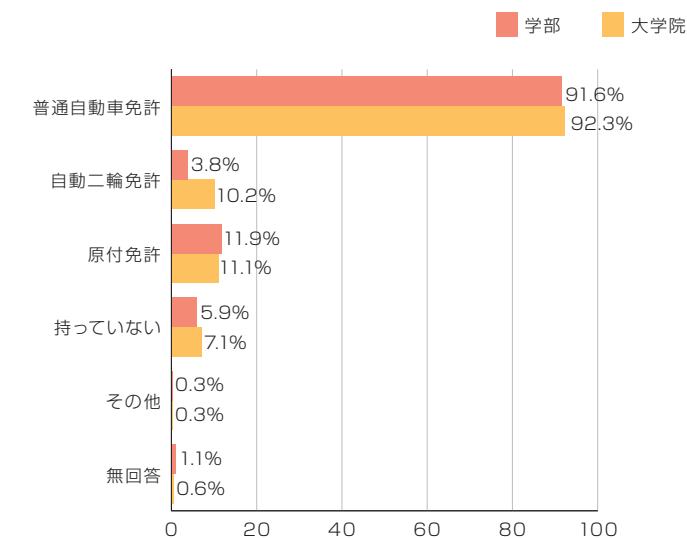
グラフ Q: 本学が行っている派遣留学制度、海外短期 (語学、異文化体験) 研修に大学が経済的な支援をしていることを知っていますか。



自動車等の運転免許については、学生全体の約9割が所有している。所有していない学部生の割合は微減した(今回7.1%, 前回12.4%)。交通事故に遭ったかについては、全体でみると7.8%で前回と同程度であるが、学部生においては微増している(今回10.8%, 前回8.2%)。自由記述によると、学内入ってすぐの十字路や学生寮の周辺で危険を感じたことがあると回答している。

学内での盗難・車上荒らし・居室への侵入等の被害については、学生全体の2.5%であり、大きな変化はない(前回1.1%, 前々回3.2%)。

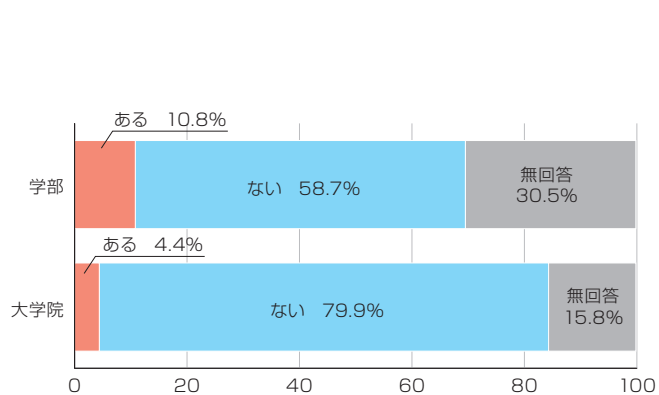
グラフ Q: 自動車等の運転免許を持っていますか。(複数回答可)



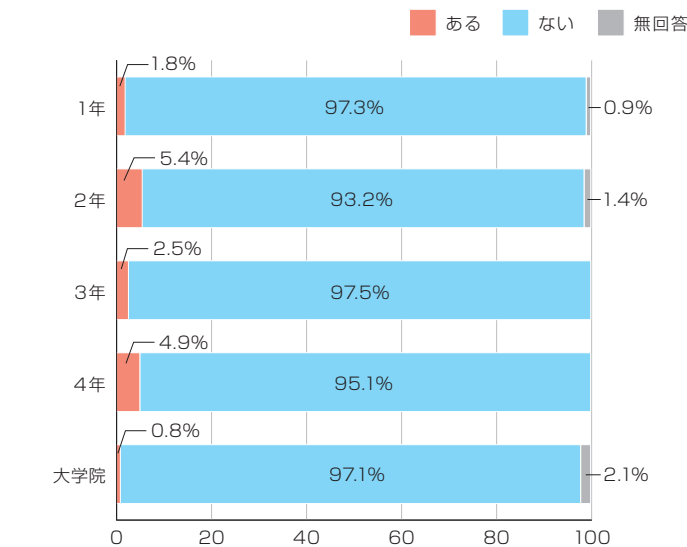
学内の治安について不安に思っている割合は 8.4%で着実に減少している(前回11.5%, 前々回39.0%)。

今回のアンケート結果から、交通安全については「事故ゼロ」をめざして、安全への意識を継続していく必要がある。学内の治安等においても減少傾向を示しているものの、不安を抱いている学生もいることから、常に注意喚起をし、交通安全や防犯に向けた対策を確実にとっていく必要がある。

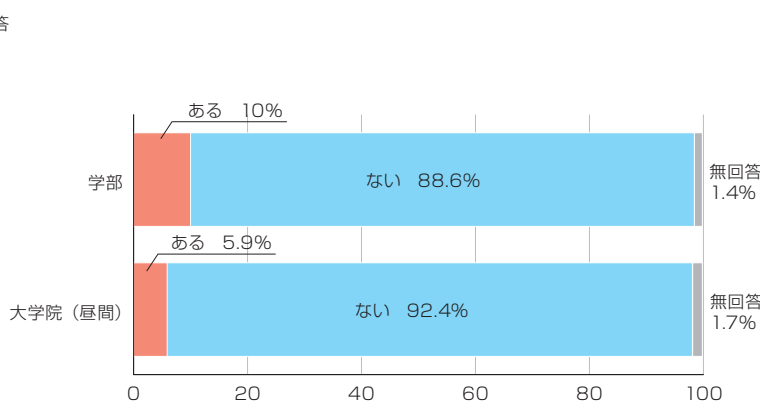
グラフ Q: この1年間 (1年次生は入学後) で、自動車・バイク等を運転していて交通事故に遭ったことがありますか。



グラフ Q: 学内 (学生寄宿舎を含む) で、盗難・車上荒らし・居室への侵入等の被害に遭ったことがありますか。



グラフ Q: 学内の治安について不安に思ったことはありますか。





Hyogo University of Teacher Education

学生の健康のために保護者・家庭ともつながる

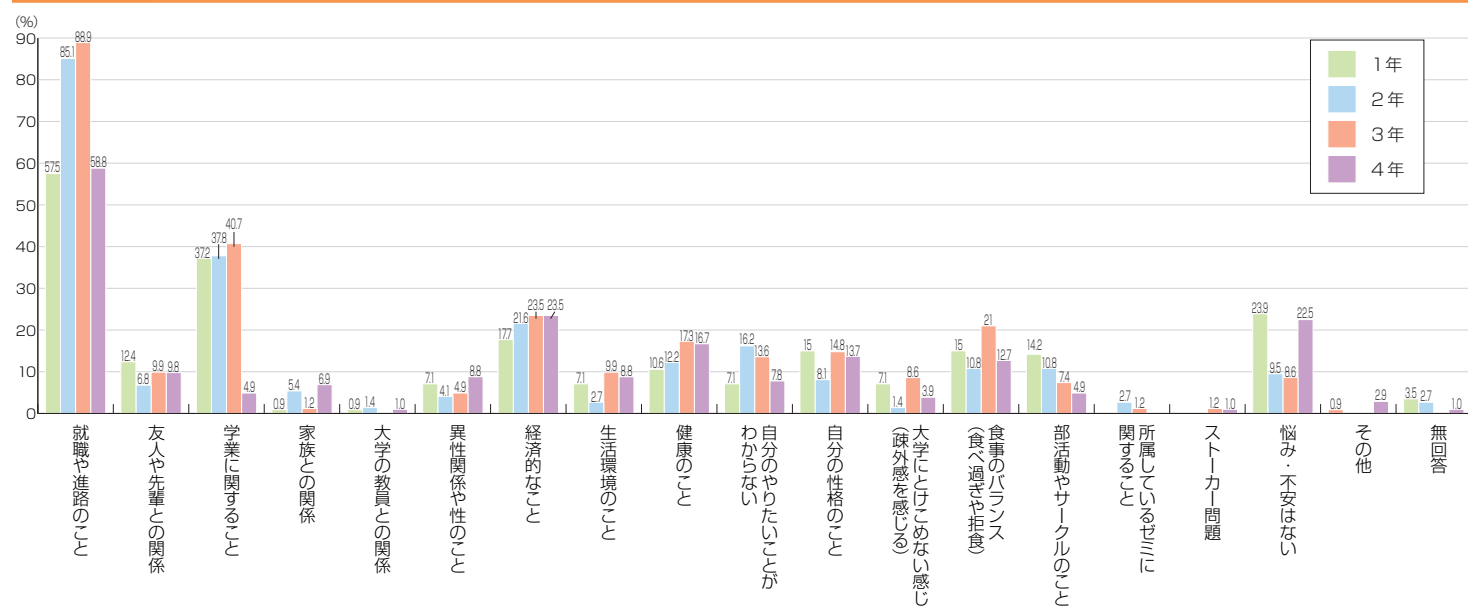
「どのようなことに悩み・不安を感じていますか」という問いによって、学生たちの精神的健康の状態を尋ねた結果、前々回・前回調査結果と大きな変化はなく、「就職や進路」、「学業」、「経済的なこと」が上位3つであった。

これを学年毎で見ると興味深い読み取りができる。下のグラフが示すように、「就職や進路」に関する悩み・不安は、1年生(57.5%)、2年生(85.1%)、3年生(88.9%)と学年進行につれて大きくなっている(4年生ではほぼ卒業後の姿が決まってきたためか、58.8%に下がる)。現在、大学では進路就職に関する相談体制は確立しているが、

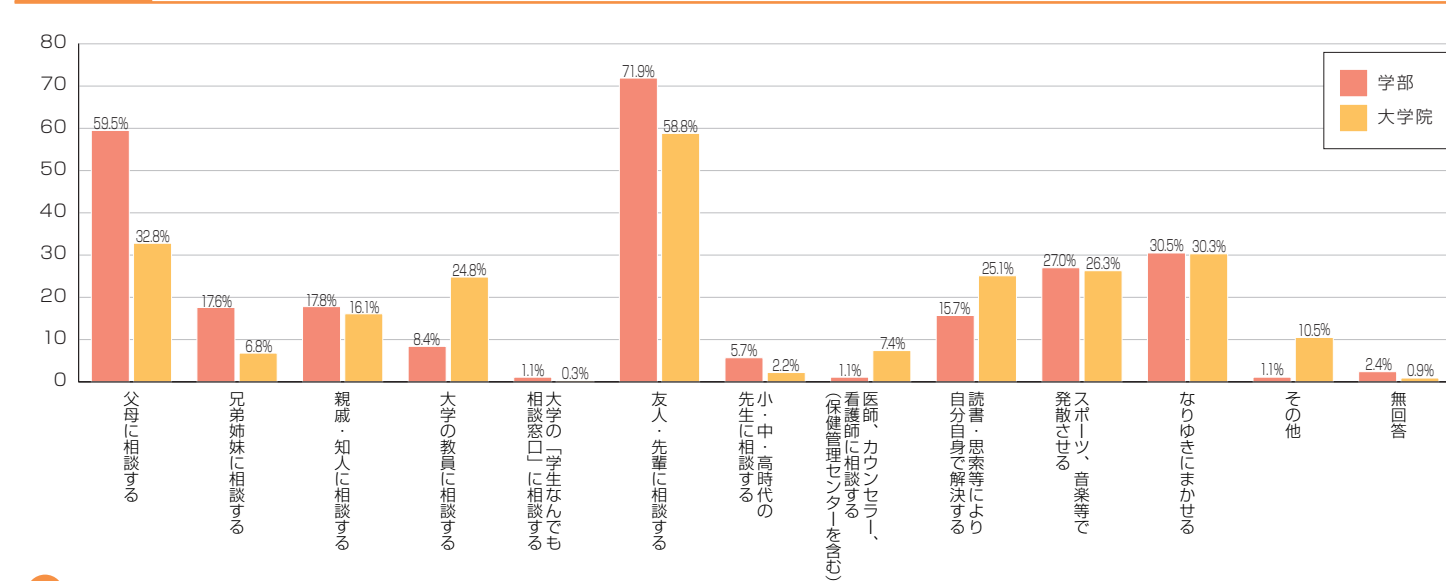
2・3年生からの相談に適切に対応していくことが今後さらに望まれよう。

次に、「不安・悩みへの対処方法」については、学部生・大学院ともに「友人・先輩に相談(71.9%と58.8%)」、「父母に相談(59.5%と32.8%)」が高い。学部生の段階では家庭との情報共有や連携が必要であるとともに、学部・院を通じて学内での人間関係を良好に日頃からしておく必要が伺われた。

**グラフ** Q:どのようなことに悩み・不安を感じていますか。(複数回答可)



**グラフ** Q: 悩み・不安が生じた場合、どう対処しますか。(5つまで回答可)



Hyogo University of Teacher Education

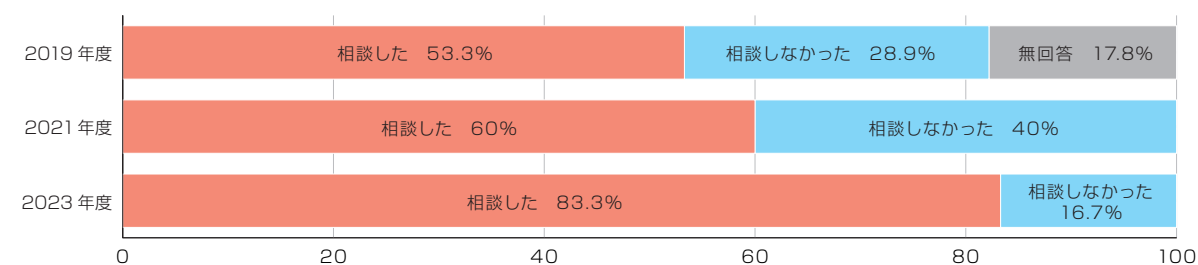
大学に「それはハラスメントです!」と言い合える雰囲気を

「自身のハラスメント体験」については、前回調査からわずかながら増加している（2.9%→4.3%）。細かく見てみると、男子よりも女子、学部生よりも大学院生の方が2倍以上多い点はその中身を含めて注視すべきである。

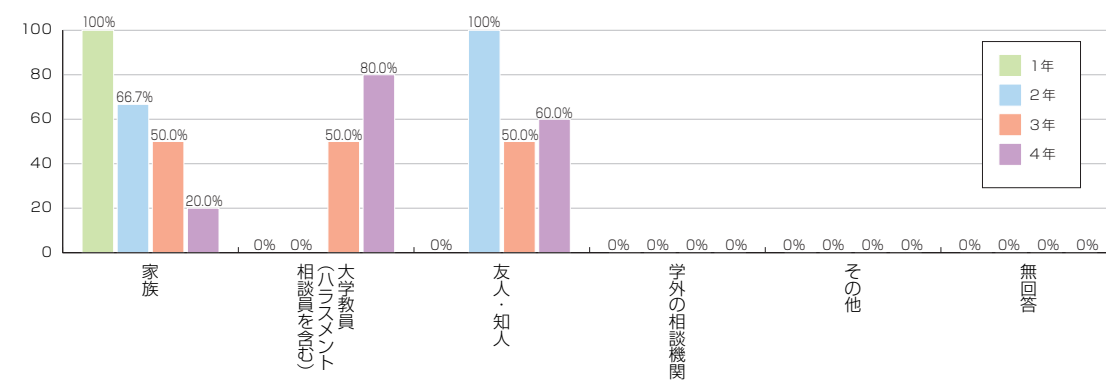
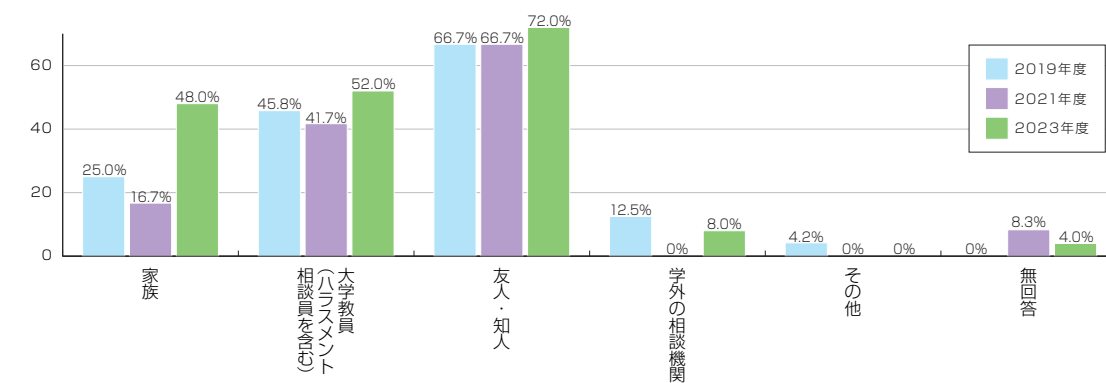
「誰かに相談したか」という問いについては、「相談した」割合は全体として83.3%と高い値を示し、前々回(53.3%)・前回(60.0%)か

大きく増加していた。また、「相談した先」は、「友人・知人」、「大学の教職員」、「家族」の順となっているが、学部1年生の「家族」が100%、2年生の「友人・知人」の100%、そして学部4年生の「大学教職員」の80%と、学年による差が興味深い。大学生生活に慣れてくる中で学生なりに様々な相談相手を見つけていることが窺われる。大学としては、学生が相談できる先を複数持てるようにしておくことが必要である。

グラフ Q:誰かにハラスメントについて相談しましたか。



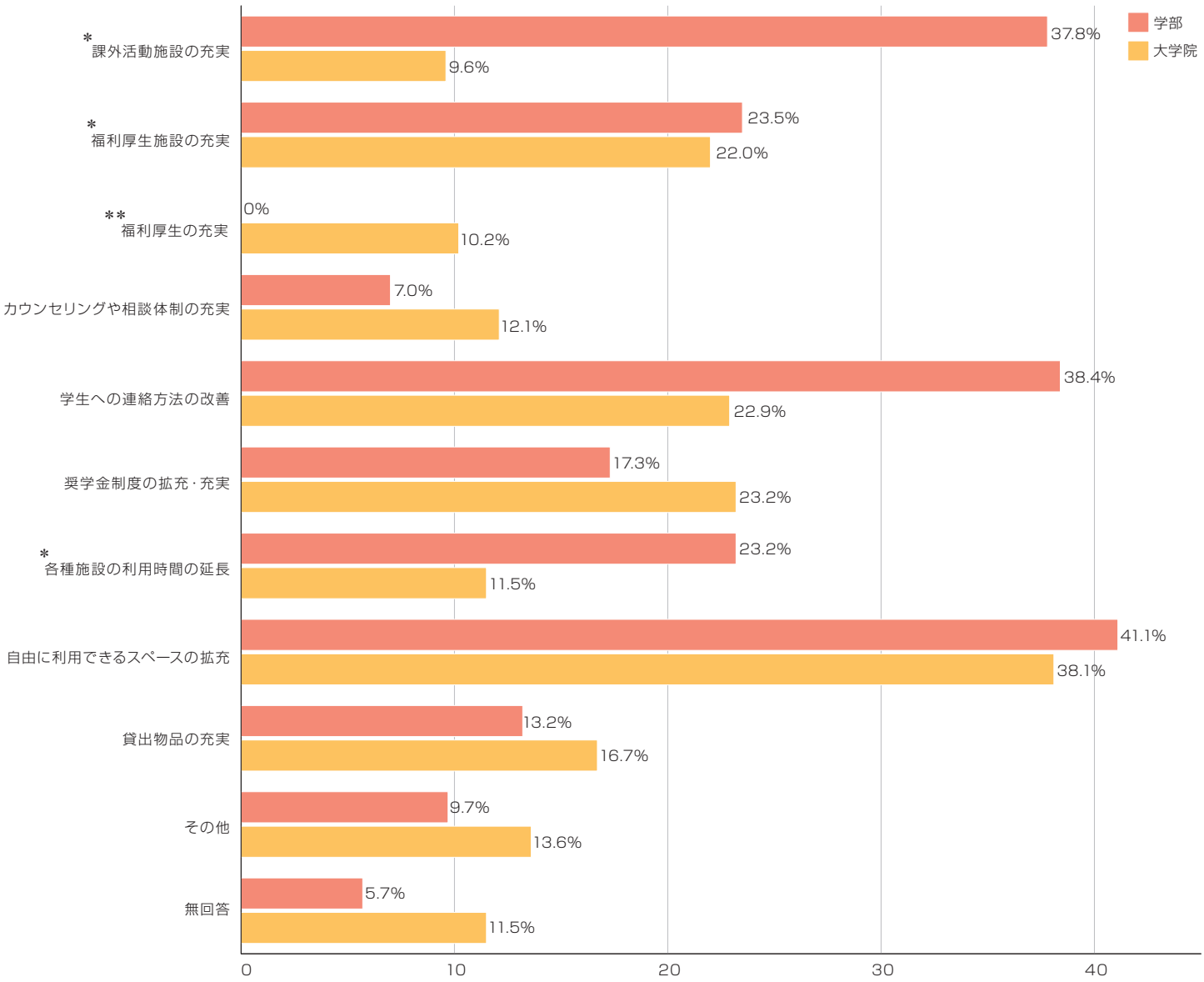
グラフ Q: 誰に相談しましたか。(複数回答可)





「大学に特に要望することや期待すること」について、複数回答で回答のあったものを集計したところ、学部生については、「自由に利用できるスペースの拡充」(41.1%)、「学生への連絡方法の改善」(38.4%)、「課外活動施設の充実」(37.8%)、「福利厚生施設の充実」(23.5%)、「各種施設の利用時間の延長」(23.2%)の順である。また、大学院生については、「自由に利用できるスペースの拡充」(38.1%)、「奨学金制度の拡充・充実」(23.2%)、「学生への連絡方法の改善」(22.9%)、「福利厚生施設の充実」(22.0%)、「貸出物品の充実」(16.7%)の順である。

グラフ Q：大学に特に要望することや期待することは何ですか。(5つまで回答可) 大学院については、\*は(昼間)のみ、\*\*は(夜間)のみ回答



## 学 部 生

### 学部生の自由記述による回答を見ると、 第1位の「自由に利用できるスペースの拡充」については

- 個室の勉強スペースやオンライン授業による声出しが可能なスペースがほしい。
- 学生が自由に利用できるスペースが少ないので、食堂以外にも複数人で気兼ねなく話せる空間がほしい。
- くつろいだりできるフリースペースがほしい。
- 時間をつぶせる場所を増やしてほしい。

などが挙げられている。

**大学の対応**

学生の皆さんが、自学自習、グループ学習、歓談等自由に利用できて、飲食可能なスペースとして現在、総合研究棟1階学生ホール(利用可能時間：平日の8:30～19:00、eduroam、電源コンセント整備)と大学会館のうれしいの食堂(利用可能時間：平日9:00～21:00、eduroam、Free\_Wi-Fi整備)を設けています。この2か所は、一人用カウンター席のほかリラクセスできる空間であるとともに自由に利用できる空間としています。うれしいの食堂は、令和6年3月テーブル、椅子の一部に温かみのある明るい色調の家具を取り入れ、くつろぎの空間にリニューアルしました。

また、図書館では飲料の自動販売機を設置し、PAO、オープンテラスのほか、ライブラリーホールをリラクセスして勉強に取り組めるよう配慮しています。

このほか、自主的な学びのための共用スペースとしてラーニングcommonsを総合研究棟(オープンセミナールーム、キャリアセンター)、大学会館(アクティブラーニングスタジオ等)、附属図書館(PAO、グループラボ3室)を整備しています。

所定の手続きをすれば、学生交流室、多目的ホールや共通講義棟の各教室を、マイクロティーチングや研究、グループ学習、就職対策などに活用していただけます。

### 第2位の「学生への連絡方法の改善」については

- manaba や LiveCampus、Teams、メールなど、先生によって使用されるツールが違い、見落としが起きやすくなっているため、授業連絡は一つのツールにしてほしい。
- manaba や LiveCampus の併用は、連絡の見落としにつながるため、授業連絡はmanabaで統一してほしい。
- 大切な連絡が掲示板だけに掲載されていることがあり、通知などが来ないため、メールを通してほしい。
- 連絡方法を先生によってバラバラにするのではなく、どれか一つにまとめてほしい。

などが挙げられている。

**大学の対応**

学生の皆さんから授業連絡ツールを一つにしてほしいとの意見をいただいております。関係会議で検討を行いました。

検討の結果、少なくとも一つの授業科目の中では、授業担当教員が複数の場合でも、一つの授業連絡ツールに統一するよう先生方をお願いをしています。

なお、様々な授業連絡ツールを利用しているのには、それぞれのツールに利点があることに加えて、皆さんが教育現場に出た際、いろいろなツールやデバイスを利用した経験があった方がよいとの考えもあつてのことになりますので、ご理解いただければと思います。

掲示板については授業についての大切な連絡を掲載していますので、掲載事項を追加したときには、あわせてLiveCampusでお知らせするよう徹底します。

### 第3位の「課外活動施設の充実」については

- 夏に部活をしていると熱中症になることがあるため、空調の改善やエアコンの設置を検討してほしい。
- 陸上グラウンドにシャワーを設置してほしい。
- ソフトボール場のナイター照明が少なく、ボールが見えにくくて危険なため、強力なライトをつけてほしい。
- クラブハウスについて、トイレの改修やWi-Fi環境の整備をしてほしい。

などが挙げられている。

**大学の対応**

課外活動施設については、今後も教育研究施設の整備計画や安全面に配慮しながら順次改善を進めていく予定です。令和5年度には、陸上競技場のトイレ、更衣室が改修され、新たに多目的トイレが増設されました。また、テニスコート人工芝の張り替え(3面)及び弓道場の古くなった土の改修工事を行いました。



第4位の「福利厚生施設の充実」については

- 食堂のメニューをもっと充実してほしい。
- 食堂は、引き続き夕食の営業を行ってほしいし、さらに朝食も営業も行ってほしい。
- 売店について、食料品をもっと充実させてほしい。
- 空コマで利用できるようなカフェを設置してほしい。
- などが挙げられている。

|       |                                                                                      |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学の対応 | 食堂については、令和6年4月から試行的に夕食の営業を再開しサービスの向上に努めておりますが、朝食を含め、利用者数や採算性の問題で、営業するのは困難な状況となっています。 |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------|

第5位の「各種施設の利用時間の延長」については

- 図書館の土日の利用時間を延長してほしい。
- 共通講義棟の利用時間を延長してほしい。
- 食堂、売店、ペーカリーショップの営業時間を延長してほしい。
- 学部1、2年生でも芸術棟のピアノ練習室の土日使用を可能にしてほしい。
- などが挙げられている。

|       |                                                                                                                                                                                |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学の対応 | 本学の各種施設においては、学生の皆さんからの要望を考慮するとともに、利用状況、施設整備及び警備上の観点から総合的に判断して、現在の利用時間等を決定しているところです。Yショップの営業時間については、無人レジを導入するなどサービスの改善を図っていますが、本学の規模から利用人数が限られるため、採算性の問題で営業時間を延長するのは難しい状況にあります。 |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

大学院生

次は、大学院生の自由記述による回答を見てみると、

第1位の「自由に利用できるスペースの拡充」については、

- オンライン授業の受けられる場所が少なく不便なので改善してほしい。
- 自由に歓談できるスペースがほしい。
- 神戸キャンパスについて、合同研究室の他に、学生同士が話せるスペース（交流スペース）がほしい。
- などが挙げられている。

|       |                                                                        |
|-------|------------------------------------------------------------------------|
| 大学の対応 | 「自由に利用できるスペースの拡充」は学部学生の「大学に要望することや期待すること」の第1位でしたので、P24の「大学の対応」をご覧ください。 |
|-------|------------------------------------------------------------------------|

第2位の「奨学金制度の拡充・充実」については、

- 現職の学生に向けた奨学金を充実してほしい。
- ストレート院生が利用できる学内の奨学金があるとよい。
- 奨学金制度の家計状況の適用範囲を拡充してほしい。
- 奨学金制度について、より分かりやすい案内があるとよい。
- などが挙げられている。

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学の対応 | 本学独自の奨学金・研究助成金として「兵庫教育大学特例制度利用者奨学金」、「兵庫教育大学学生奨学金」、「海外留学支援特別奨学金」、「大学院同窓会研究助成金」、「兵庫教育大学学会発表奨励金」、「現職教員学生研究助成金」を設け、修学支援制度の充実を図り、高度な専門性と実践的指導力を有した人材育成を行っています。また、国の施策により授業料後払い制度の創設や、2025年度から大学院修了後教員になった方の、日本学生支援機構の第一種奨学金等が返還免除されるなど、奨学金制度の拡充・充実が図られています。詳細は本学ホームページを参照ください。 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第3位の「学生への連絡方法の改善」については、

- 教員からの連絡方法について、manabaやLiveCampus、Teams、メールなどバラバラなので、統一してほしい。
- 掲示板よりもメールでお知らせしてほしい。
- 通学時間が長い身としては、授業連絡が遅いのが厳しい。
- などが挙げられている。

|       |                                                                    |
|-------|--------------------------------------------------------------------|
| 大学の対応 | 「学生への連絡方法の改善」は学部学生の「大学に要望することや期待すること」の第2位でしたので、P24の「大学の対応」をご覧ください。 |
|-------|--------------------------------------------------------------------|

第4位の「福利厚生施設の充実」については、

- 食堂のメニューを増やしてほしい。
- 食堂営業時間外の売店の食料品の品数を充実してほしい。
- 構内の自動販売機は全て電子マネー対応にしてほしい。
- ゆうちょ銀行など学内ATMを充実してほしい。
- などが挙げられている。

|       |                                                                                                                                                                                                         |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学の対応 | 食堂のメニューについては、低価格の単品メニューや日替わりメニューの設置、ご当地ライスフェアや冷やし麺フェアを開催するなど、学生の皆さんの満足度向上を目指し、サービスの向上を図っています。<br>ゆうちょ銀行ATMについては、ATM設置存続指標である年間の利用件数が、最低基準を満たさない状況が続いたため、株式会社ゆうちょ銀行により平成30年9月に撤去された経緯があり、再設置は難しい状況にあります。 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第5位の「貸出物品の充実」については、

- 大学にある本や他大学の研究資料などの量を、もっと充実させてほしい。
- パソコンを貸していただいたのは本当に助かった。
- 図書館のサービス自体は満足しているが、図書館の本が少ないように感じます。
- モバイルWi-Fiルーターなどの貸し出しはありがたかった。
- などが挙げられている。

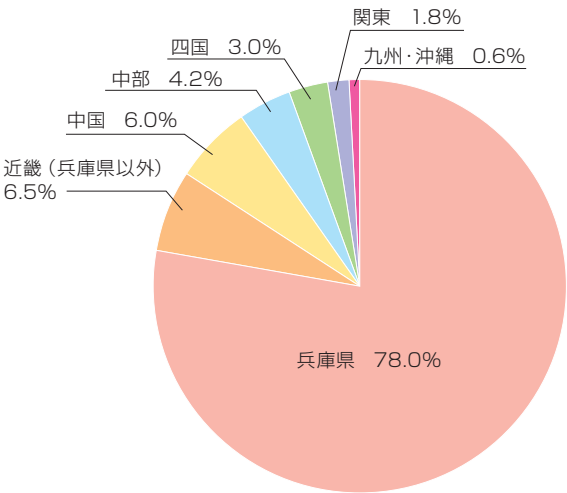
|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学の対応 | 附属図書館には約36万冊の資料があります。書店や公共図書館とは違い、古い本も保存しているので、新しい本や読みたい本が少ないという印象を受けるかもしれません。学生の皆さんのニーズに対応した蔵書を構築するため、学生希望図書制度を設けています。ぜひご活用ください。<br>なお、近年は電子ブックを重点的に整備しつつあり、書架になくともOPAC（蔵書検索システム）で新刊本が見つかることもあります。また、所在が研究室となっている本でも、図書館カウンターで手続きをすることで借りることができます。<br>その他、図書館間相互協力により、兵庫県立図書館等いくつかの図書館から無料で本を取り寄せるサービスもあります。また、本学の協定校である甲南大学図書館の訪問利用・館外貸出サービスも利用いただけます。詳細は附属図書館ホームページを参照ください。 |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

# 参考資料

## 入学者の地域別分布（令和5年度入学者）

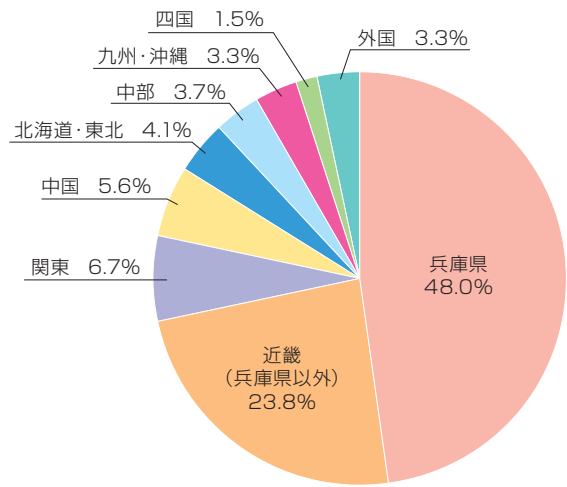


| 地 域       | 人数(人) | 割合(%) |
|-----------|-------|-------|
| 兵庫県       | 131   | 78.0  |
| 近畿（兵庫県以外） | 11    | 6.5   |
| 中国        | 10    | 6.0   |
| 中部        | 7     | 4.2   |
| 四国        | 5     | 3.0   |
| 関東        | 3     | 1.8   |
| 九州・沖縄     | 1     | 0.6   |
| 北海道・東北    | 0     | 0     |
| 外国        | 0     | 0     |
| 合 計       | 168   | 100.0 |



修士課程  
専門職学位課程

| 地 域       | 人数(人) | 割合(%) |
|-----------|-------|-------|
| 兵庫県       | 129   | 48.0  |
| 近畿（兵庫県以外） | 64    | 23.8  |
| 関東        | 18    | 6.7   |
| 中国        | 15    | 5.6   |
| 北海道・東北    | 11    | 4.1   |
| 中部        | 10    | 3.7   |
| 九州・沖縄     | 9     | 3.3   |
| 四国        | 4     | 1.5   |
| 外国        | 9     | 3.3   |
| 合 計       | 269   | 100.0 |



## 令和5年度奨学金受給者数

### 日本学生支援機構奨学金

【単位：人】 令和6年1月現在

| 学種・学年       |         | 給 付 | 第 一 種 | 第 二 種 | 学 年 計 | 学種別合計 | 奨学生割合 |       |
|-------------|---------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 学 部         |         | 1年  | 9     | 26    | 23    | 58    | 272   | 40.8% |
|             |         | 2年  | 22    | 31    | 31    | 84    |       |       |
|             |         | 3年  | 14    | 26    | 28    | 68    |       |       |
|             |         | 4年  | 15    | 26    | 21    | 62    |       |       |
| 大<br>学<br>院 | 修士課程    | 1年  |       | 18    | 3     | 21    | 49    | 13.3% |
|             |         | 2年  |       | 23    | 5     | 28    |       |       |
|             | 専門職学位課程 | 1年  |       | 4     | 3     | 7     | 25    | 10.4% |
|             |         | 2年  |       | 10    | 4     | 14    |       |       |
|             |         | 3年  |       | 3     | 1     | 4     |       |       |
|             | 博士課程    | 1年  |       | 3     | 0     | 3     | 5     | 2.8%  |
|             |         | 2年  |       | 1     | 0     | 1     |       |       |
|             |         | 3年  |       | 1     | 0     | 1     |       |       |
| 合 計         |         | 60  | 172   | 119   | 351   | 351   | 24.2% |       |

## 第 16 回(令和 5 (2023) 年度) 学生生活実態調査報告書

令和 6 年 7 月発行

### 編集 兵庫教育大学学生委員会

|       |                  |
|-------|------------------|
| 委 員 長 | 河内 勇（人間発達教育専攻）   |
| 副委員長  | 岸田 恵津（人間発達教育専攻）  |
| 委 員   | 須田 康之（理事・副学長）    |
|       | 鳥取 伸彬（人間発達教育専攻）  |
|       | 小倉 拓郎（教育実践高度化専攻） |
|       | 羽田 潤（教育実践高度化専攻）  |
|       | 森田 啓之（人間発達教育専攻）  |
|       | 高橋 信雄（教育研究支援部長）  |

兵庫教育大学 教育研究支援部 学生支援課  
〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1